

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・ブラジル等で下方修正されたものの、カザフスタン、アルゼンチンで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

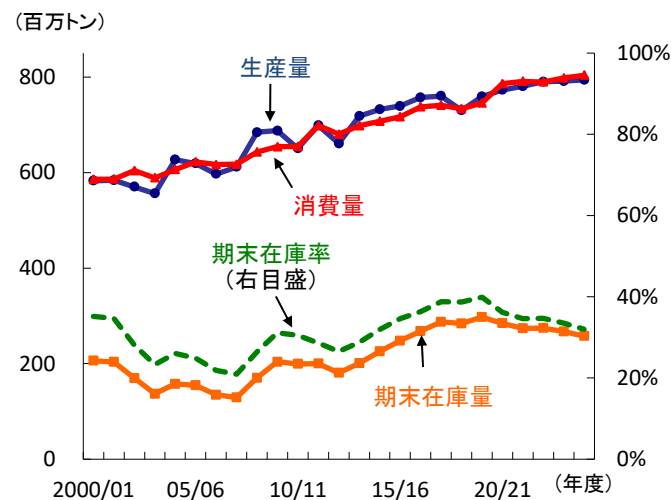
消費量 前年度比 前月比

- ・イラン、スーダン等で下方修正されたものの、EU、英国、メキシコ等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 前月比

- ・EU、ロシア、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



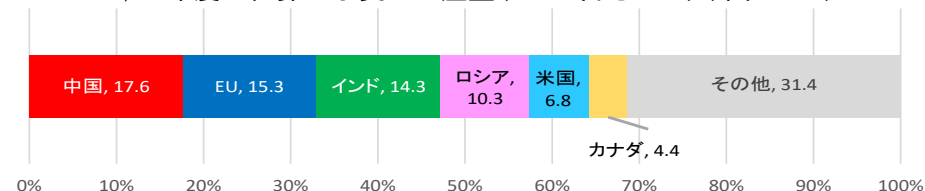
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

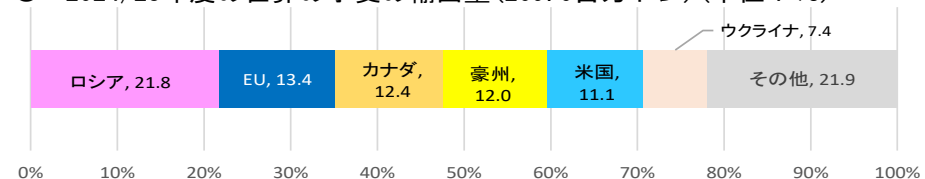
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	789.9	791.2	793.8	0.6	0.3
消 費 量	789.6	798.0	803.7	1.8	0.7
うち飼料用	152.8	159.2	153.5	0.8	▲ 3.6
輸 出 量	221.8	221.2	209.0	▲ 3.0	▲ 5.5
輸 入 量	213.3	221.8	204.8	▲ 3.7	▲ 7.7
期末在庫量	274.3	267.5	257.6	▲ 1.3	▲ 3.7
期末在庫率	34.7%	33.5%	32.0%	▲ 0.2	▲ 1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 February 2025)

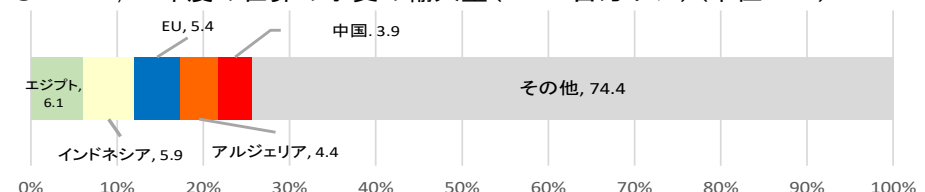
○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(793.8百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(209.0百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(204.8百万トン)(単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 9.3%増加の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 53.7 百万トンと、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.3%増、過去 5 年平均（48.2 百万トン）と比べても 11.4%増となる見込み。品種別には、ハード・レッド・ウインター（HRW）が 21.0 百万トン（前年度比 29.3%増）、ハード・レッド・スプリング（HRS）が 13.7 百万トン（同 8.0%増）、ホワイト小麦（WW）が 7.5 百万トン（同 17.7%増）、デュラム小麦（Durum）が 2.2 百万トン（同 34.9%増）と、前年度と比べ増加する一方で、ソフト・レッド・ウインター（SRW）は前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等を受け 9.3 百万トン（同 23.7%減）となる見込み。

同「Wheat Outlook」（2025.1.14）によれば、2025/26 年度の冬小麦の作付面積は 1,381 万ヘクタールと、カンザス州、オクラホマ州等で減少するものの、テキサス州、モンタナ州、ワシントン州等で増加することから、前年度（1,351 万ヘクタール）と比べ 2.2%増となる見込み。

「Wheat Outlook」（2025.2.13）によれば、2025/26 年度の冬小麦の作柄を 1 月 5 日現在と 2 月 2 日現在で比較した場合、「良～やや良」の割合は、冬期においても作柄報告のある州のうち、生産量が最も多いカンザス州の評価は 47%から 50%に改善したものの、他の主要生産州のうちオクラホマ州では 45%から 40%、コロラド州では 70%から 57%と 1 月より低下した。1 月後半の寒波により主要生産州の一部で冬枯れが引き起こされた可能性があると考えられる。また、2 月 4 日現在、2025/26 年度の冬小麦の 23%が干ばつ地域にあると推定されているものの、1 月 7 日（24%）と比べ 1 ポイント減少している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 23.1 百万トンと、増産による輸出余力の増加に加え、EU、ロシア及びウクライナの輸出余力の減少等を受け、前年度と比べ 20.2%増、過去 5 年平均（23.0 百万トン）と比べても 0.5%増と 4 年ぶりの高水準となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～12 月の輸出量は、1,280.9 万トンと前年同期（982.0 万トン）と比べ 30.4%増となっており、国別にはメキシコ 221.3 万トン（17.3%）、フィリピン 146.2 万トン（11.4%）、日本 138.7 万トン（10.8%）の順。

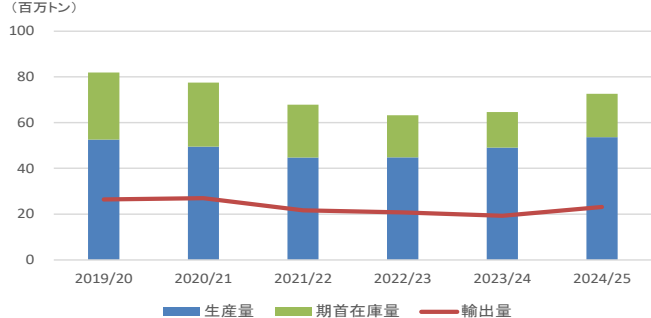
2024/25 年度の期末在庫量は、消費量の引上げを受け前月予測から 0.1 百万トン下方修正され 21.6 百万トンとなるものの、前年度と比べ 14.1%増となる見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.1	53.7	-	9.3
消費量	30.3	30.2	31.4	0.1	4.1
うち飼料用	2.0	2.3	3.3	-	41.6
輸出量	20.7	19.2	23.1	-	20.2
輸入量	3.3	3.8	3.5	-	▲ 5.9
期末在庫量	15.5	19.0	21.6	▲ 0.1	14.1
期末在庫率	30.4%	38.4%	39.7%	▲ 0.2	1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.36	15.01	15.57	-	3.7
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.45	-	5.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(11 February 2025)

図 米国の小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025.2.11)をもとに農林水産省で作成

表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2024年6月～12月)			2023/24年度 (2023年6月～2024年5月)			2022/23年度 (2022年6月～2023年5月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
メキシコ	221.3	17.3	メキシコ	325.8	17.4	メキシコ	365.4	18.0
フィリピン	146.2	11.4	フィリピン	274.5	14.7	フィリピン	206.1	10.2
日本	138.7	10.8	中国	216.9	11.6	日本	204.1	10.1
韓国	124.6	9.7	日本	197.1	10.5	韓国	147.2	7.3
台湾	67.9	5.3	韓国	130.1	6.9	中国	120.6	6.0
タイ	52.3	4.1	台湾	110.5	5.9	ナイジェリア	81.9	4.0
その他	529.8	41.4	その他	618.1	33.0	その他	901.7	44.5
計	1,280.9	100.0	計	1,873.0	100.0	計	2,027.0	100.0

資料：USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省
で作成

＜ カナダ ＞ 2025/26 年度の作付面積は前年度から 2.5%増加の見込み（AAFC）

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2025.2.19）によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 35.0 百万トンと、干ばつの影響により減産となった前年度（32.9 百万トン）と比べ 6.1%増、過去 5 年平均（31.7 百万トン）と比べても 10.4%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 29.1 百万トンと、前年度（28.9 百万トン）と比べ 0.8%増、過去 5 年平均（26.8 百万トン）と比べても 8.7%増となり、史上最高の生産量となった 2013/14 年度に次ぐ史上 2 番目の生産量になる見込み。デュラム小麦も 5.9 百万トンと、前年度（4.1 百万トン）と比べ 43.6%増、過去 5 年平均（4.9 百万トン）と比べても 19.8%増となる見込み。

2025/26 年度の小麦の作付面積は、前月予測から 7 万ヘクタール上方修正され 11.1 百万ヘクタールと前年度（10.84 百万ヘクタール）と比べ 2.5%増加する見込み。種類別には、普通小麦は前月予測からの変更はなく 8.58 百万ヘクタールと前年度（8.26 百万ヘクタール）と比べ 3.8%増となる一方で、デュラム小麦が前月予測から 7 万ヘクタール上方修正され 2.53 百万ヘクタールとなるものの、前年度（2.58 百万ヘクタール）と比べ 2.0%減となる見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 26.2 百万トンと、前年度（25.3 百万トン）と比べ 3.3%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 21.3 百万トンと、増産となるものの、低品質な小麦が増加し飼料用消費量が増加すること等から前年度（21.8 百万トン）と比べ 2.4%減となる見込み。デュラム小麦は 4.9 百万トンと、生産量の回復による輸出余力の増加等を受け、前年度（3.5 百万トン）と比べ 38.1%増となる見込み。

カナダ穀物委員会（CGC）によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～12 月の輸出量は、1,075.8 万トンと、前年同期（1,034.4 万トン）と比べ 4.0%増。種類別には、普通小麦が 850.6 万トンと、前年同期（910.6 万トン）と比べ 6.6%減で、国別にはインドネシア 88.1 万トン（10.4%）、日本 87.6 万トン（10.3%）、ペルー 57.3 万トン（6.7%）の順。デュラム小麦は 225.2 万トンと、前年同期（123.8 万トン）と比べ 81.9%増で、国別にはイタリア 55.4 万トン（24.6%）、モロッコ 47.8 万トン（21.2%）、アルジェリア 35.5 万トン（15.8%）の順。

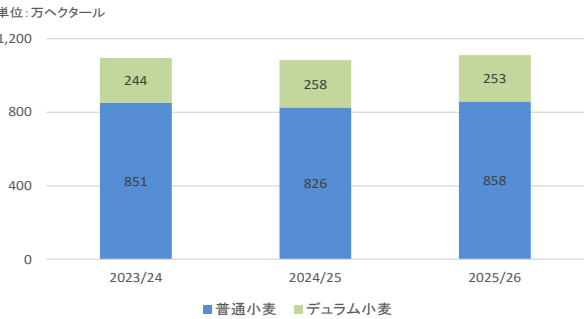
AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引下げ等を受け前月予測からわずかに下方修正され 4.4 百万トンと、前年度（4.6 百万トン）と比べ 3.9%減となる見込み。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)			
			予測値、() はAAFC		対前年度増減率(%)	
			前月予測からの変更			
生産量	34.8	33.0	35.0 (35.0)			6.1
消費量	8.3	9.1	9.5 (9.1)	▲ 0.1		4.3
うち飼料用	3.2	4.0	4.3 (4.7)	▲ 0.2		7.0
輸出量	25.6	25.4	26.0 (26.2)	-		2.2
輸入量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-		▲ 1.8
期末在庫量	5.6	4.6	4.6 (4.4)	0.1		0.2
期末在庫率	16.6%	13.3%	12.9% (12.5%)	0.2		▲ 0.3
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.10	10.70	10.65 (10.65)	-		▲ 0.5
単収(t/ha)	3.45	3.08	3.28 (3.28)	-		6.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(19 February 2025)

図 カナダ産小麦の作付面積の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2025.2.19) をもとに農林水産省で作成

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

○普通小麦 (輸出量：万トン)					
2024/25年度 (2024年8月～12月)		2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)		2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)	
国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア
インドネシア	88.1 10.4%	中国	310.3 14.7%	中国	296.8 15.1%
日本	87.6 10.3%	インドネシア	251.9 11.9%	インドネシア	213.8 10.9%
ペルー	57.3 6.7%	日本	173.9 8.2%	日本	167.3 8.5%
コロンビア	56.0 6.6%	バングラデシュ	172.7 8.2%	ペルー	148.3 7.5%
米国	46.6 5.5%	ペルー	137.3 6.5%	バングラデシュ	144.4 7.3%
その他	514.9 60.5%	その他	1,069.2 50.5%	その他	996.1 50.7%
計	850.6 100.0%	計	2,115.3 100.0%	計	1,966.6 100.0%

○デュラム小麦 (輸出量：万トン)					
2024/25年度 (2024年8月～12月)		2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)		2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)	
国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア
イタリア	55.4 24.6%	アルジェリア	89.3 26.0%	イタリア	121.0 23.8%
モロッコ	47.8 21.2%	モロッコ	81.7 23.8%	アルジェリア	120.8 23.8%
アルジェリア	35.5 15.8%	米国	46.2 13.5%	モロッコ	85.7 16.9%
米国	19.3 8.6%	イタリア	44.7 13.0%	米国	50.4 9.9%
スペイン	14.0 6.2%	日本	21.2 6.2%	チェコ	32.5 6.4%
その他	53.2 23.6%	その他	60.4 17.6%	その他	96.8 19.1%
計	225.2 100.0%	計	343.5 100.0%	計	507.3 100.0%

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2024/25 年度の小麦の収穫は完了し生産量は 31.9 百万トンの見込み（ABARES）

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局（ABARES）「Australian Crop Report」（2024.12.3）によれば、2024/25 年度の小麦の生産量は前回予測（2024.9.3）から 6 百万トン上方修正され 31.9 百万トンと、前年度（26.0 百万トン）と比べ 22.8%増、過去 5 年平均（29.8 百万トン）と比べても 6.9%増となる見込み。州別の生産量は、ニューサウスウェールズ州（NSW 州）が 12.4 百万トン（前年度比 74.8%増）、クイーンズランド州（QLD 州）が 2.2 百万トン（同 106.5%増）とシーズンを通して十分な降雨に恵まれたことから前年度と比べ大きく増加する見込み。また、ウェスタンオーストラリア州（WA 州）についても 10.8 百万トン（同 39.6%増）と生育後期の降雨により前年度から増加する見込み。一方、サウスオーストラリア州（SA 州）は 3.0 百万トン（同 37.5%減）、ビクトリア州（VIC 州）も 3.5 百万トン（同 33.7%減）とシーズンを通して降水量が少なかったことや 9 月に霜が降りた影響等により前年度から減少する見込み。なお、現地情報会社によれば 2024/25 年度の小麦の収穫は完了している。

西豪州穀物産業協会（GIWA）「Crop Report」（2025.2.14）によれば、WA 州の 2024/25 年度の小麦の生産量は、12 月予測から 1.6 百万トン上方修正され 12.45 百万トンと、前年度（7.65 百万トン）と比べ 62.7%増となる見込み。生育期間全体では降雨量が少なかったものの、開花前に降雨があったことや開花以降の土壌水分量が想定を上回っていたことが、生産量増の要因。一方で、中央及び北部の生産地では収穫期に雨が降ったため、低品質の小麦が多く発生した。

【貿易情報・その他】ABARES（2024.12.3）によれば、2024/25 年度の小麦の輸出量は前回予測から 16 百万トン上方修正され 215.6 百万トンと、前年度（198.8 百万トン）と比べ 11.0%増となるものの、過去 5 年平均（22.4 百万トン）と比べると 1.9%減となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～12 月の輸出量は 386.8 百万トンと、前年同期（392.2 百万トン）と比べ 1.4%減となっている。国別には、インドネシア 73.1 百万トン（18.9%）、フィリピン 65.7 百万トン（17.0%）、イエメン 36.6 百万トン（9.5%）の順。2024 年 12 月の輸出量は 215.6 百万トンと、南部から 2024/25 年産小麦の輸出が始まったことから、11 月（57.7 百万トン）と比べ 273.8%増、前年 12 月（138.1 百万トン）と比べても 56.1%増となっている。

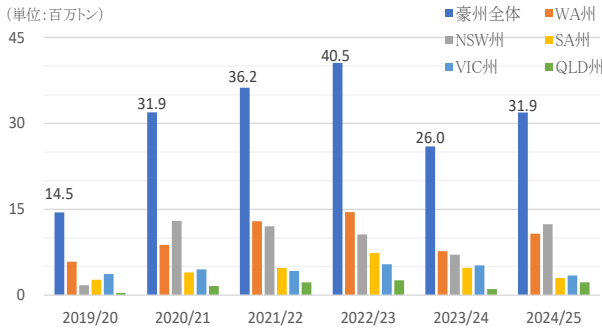
2024/25 年度の期末在庫量は輸出量の上方修正等を受け前回予測から 7.2 百万トン下方修正され 4.0 百万トンとなるものの、前年度（2.8 百万トン）と比べ 43.8%増となる見込み。

小麦一豪州（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)					
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	40.6	26.0	32.0 (31.9)	-	23.3
消 費 量	8.0	7.8	7.5 (8.7)	-	▲ 3.8
うち飼料用	4.5	4.3	4.0 ...	-	▲ 7.0
輸 出 量	31.8	19.8	25.0 (21.9)	-	26.0
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 ...	-	▲ 9.1
期末在庫量	4.4	2.9	2.6 (4.0)	-	▲ 10.3
期末在庫率	11.0%	10.5%	8.0% (13.2%)	-	▲ 2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	13.05	12.37	13.00 (13.06)	-	5.1
単収(t/ha)	3.11	2.10	2.46 (2.44)	-	17.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
ABARES 「Australian Crop Report」(3 December 2024)

図 豪州の小麦の生産量の推移



資料: ABARES「Australian Crop Report」(2024. 12. 3) をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン, シェア: %)							
2024/25年度 (2024年10月～12月)				2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			
国 名	輸出量	シェア		国 名	輸出量	シェア	
インドネシア	73.1	18.9		中国	375.5	19.0	
フィリピン	65.7	17.0		インドネシア	323.5	16.4	
イエメン	36.6	9.5		フィリピン	233.6	11.8	
ベトナム	35.4	9.1		イエメン	152.2	7.7	
韓国	31.6	8.2		ベトナム	285.5	9.0	
中国	17.6	4.6		韓国	120.6	6.1	
その他	126.7	32.8		タイ	119.4	6.1	
計	386.8	100.0		その他	648.5	32.9	
				計	1,973.3	100.0	

資料: ABARES 「Trade dashboard」 をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25 年度の輸出量は前年度から減少し 25.7 百万トンの見込み (EC)

【生育・生産状況】欧州委員会 (EC) 「EU Cereals Balance Sheets」(2025.2.3) によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 119.1 百万トンとなる見込み。2023 年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、生育期間を通じた降雨過多等により収穫面積及び単収が減少することを受け、前年度 (132.6 百万トン) と比べ 10.2%減、過去 5 年平均 (133.4 百万トン) と比べても 10.7%減となる見込み。このうち、普通小麦は前月予測からの変更はなく 111.9 百万トンと、前年度と比べ 10.6%減、過去 5 年平均と比べても 11.1%減となる見込み。国別にはフランスが降雨過多等を受け前年度比 27.2%減の 25.4 百万トン、ドイツも同 13.8%減の 18.2 百万トンとなる見込み。デュラム小麦も前月予測からの変更はなく 7.2 百万トンと、前年度と比べ 2.7%減、過去 5 年平均と比べても 4.3%減となる見込み。国別にはイタリアが同 5.1%減の 3.5 百万トン、フランスも同 6.5%減の 1.2 百万トンとなる一方、スペインが干ばつからの回復により前年度比 64.8%増の 0.7 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】EC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 25.7 百万トンと、減産を受け前年度 (36.4 百万トン) と比べ 29.4%減となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～11 月の輸出量は、1,223.6 万トンと、前年同期 (1,525.4 万トン) と比べ 19.8%減。種類別には、普通小麦が 1,187.8 万トンと、前年度と比べ 20.9%減となる一方、デュラム小麦は 35.8 万トンと、同 53.3%増。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2025.1.10) によれば、ロシアは 2024/25 年度後半の穀物輸出枠を過去 5 年間では最小となる 1,060 万トンに設定した (詳細は小麦の「ロシア」参照。)。ロシア産小麦の主要輸入国であるエジプト、トルコ、バングラデシュ等は EU など他の小麦輸出国に頼らざるを得ず、供給量は限られるものの、EU の輸出が上向く可能性もある。

EC によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 10.0 百万トンと、ウクライナの輸出余力の低下により同国からの輸入が減少すること等から前年度 (12.1 百万トン) と比べ 17.3%減となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～11 月の輸入量は、465.8 万トンと、前年同期 (535.4 万トン) と比べ 13.0%減。種類別には、普通小麦が 408.7 万トンと、前年度と比べ 2.7%増となる一方、デュラム小麦は 57.2 万トンと、同 58.4%減。

2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引上げを受け、前月予測からわずかに上方修正され 10.7 百万トンとなるものの、供給量の減少から前年度 (18.0 百万トン) と比べ 40.5%減となる見込み。

小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

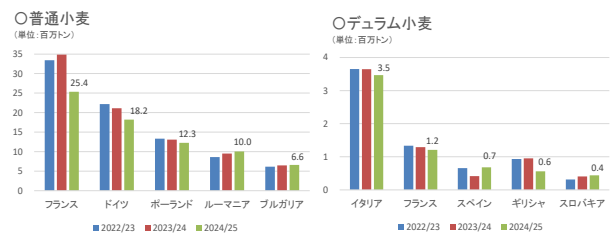
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() はEC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.5	135.1	121.3 (119.1)	-	▲ 10.2
消費量	109.0	110.5	109.3 (110.6)	0.5	▲ 1.1
うち飼料用	45.0	46.5	45.0 (45.8)	0.5	▲ 3.2
輸出量	35.1	38.0	28.0 (25.7)	▲ 1.0	▲ 26.3
輸入量	12.2	12.7	11.0 (10.0)	▲ 0.5	▲ 13.0
期末在庫量	16.3	15.5	10.6 (10.7)	-	▲ 31.9
期末在庫率	11.3%	10.5%	7.7% (7.8%)	0.03	▲ 2.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.44	24.34	22.83 (22.32)	-	▲ 6.2
単収(t/ha)	5.50	5.55	5.31 (5.34)	-	▲ 4.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(3 February 2025)

図 主要小麦生産国の小麦生産量の推移



資料：EC 「EU cereals production, area and yield」(2025.2.3) をもとに農林水産省で作成

表 EU27 の小麦の輸出量及び輸入量

O輸出量					O輸入量				
国名	2024/25年度 (2024年7月～11月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		国名	2024/25年度 (2024年7月～11月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		輸入量 (万トン)	シェア (%)	輸入量 (万トン)	シェア (%)
ナイジェリア	165.7	13.5	348.9	9.6	ウクライナ	256.9	55.1	648.7	53.6
アルジェリア	135.2	11.1	396.7	10.9	カナダ	83.2	17.9	138.5	11.4
モロッコ	110.0	9.0	489.1	13.4	モルドバ	33.4	7.2	73.6	6.1
エジプト	104.4	8.5	178.5	4.9	米国	30.4	6.5	34.2	2.8
英国	95.9	7.8	140.0	3.8	トルコ	19.7	4.2	76.8	6.3
アンゴラ	48.0	3.9	82.6	2.3	英国	17.8	3.8	52.4	4.3
その他	564.3	46.1	2,006.9	55.1	その他	24.4	5.2	187.1	15.4
合計	1,223.6	100.0	3,642.6	100.0	合計	465.8	100.0	1,211.2	100.0

資料：EC 「EU trade for cereals」(2025.2.3) をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2024/25 年度の輸出量は前月から下方修正され 45.5 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量（クリミア地域分を含まず）は、前月予測からの変更はなく 81.5 百万トンと、前年度と比べ 10.9%減、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べても 2.4%減となる見込み。種類別には、冬小麦が 57.5 百万トンと、前年度（64.0 百万トン）に比べ 10.2%減。春小麦も 24.0 百万トンと、前年度（27.5 百万トン）と比べ 12.7%減となる見込み。

ロシア気象センターによれば、冬小麦の主要産地である欧州部の北部及び南部では、1 月の気温が平年より 4～7℃高く、欧州部南部ではスノーカバー（積雪）が見られず、欧州部北部の西側ではスノーカバーが融解した。中旬に一時気温が低下したものの、スノーカバーがない地域も含め 2025/26 年度の冬小麦に影響はなかった。しかしながら、スノーカバーがない地域では土壌水分量が不足している。

【貿易情報・その他】ロシア連邦政府は、2024 年 12 月 20 日、2024/25 年度後半（2025 年 2 月 15 日～6 月 30 日）に小麦及びメスリンに設定される輸出枠を 1,060 万トン（前年度 2,900 万トン）とすることを発表した。USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.1.10）によれば、ロシアは、2024/25 年度の供給量が大きく減少しているにもかかわらず、2024/25 年度前半（2024 年 7 月～12 月）で 29.4 百万トンを輸出しており、史上最高の輸出量となった前年度同期（27.7 百万トン）を上回った。12 月 1 日現在のロシアの農場の小麦在庫は前年比 25%減となっており、ロシア連邦政府は、ロシア国内への供給を維持し、食料品価格の上昇を抑制するため、2024/25 年度後半の輸出枠を 1,060 万トンに設定した。当該穀物輸出枠は過去 5 年間で最小であり、2025 年 2 月以降、ロシアの輸出は減速する見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、低調な輸出を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 45.5 百万トンと、史上最高の輸出量となった前年度と比べ 18.0%減となるものの、過去 5 年平均（42.4 百万トン）と比べれば 7.3%増と史上 3 番目の輸出量となる見込み。

現地情報会社によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 1 月の輸出量は 3,104.6 万トンと、前年同期（3,109.5 万トン）と同水準となっている。国別には、エジプト 613.3 万トン（19.8%）、バングラデシュ 228.1 万トン（7.3%）、トルコ 201.4 万トン（6.5%）の順。なお、1 月のみの輸出量は 238.2 万トンで前年同月（393.8 万トン）と比べ 39.5%減と、輸出量が大きく減速している。

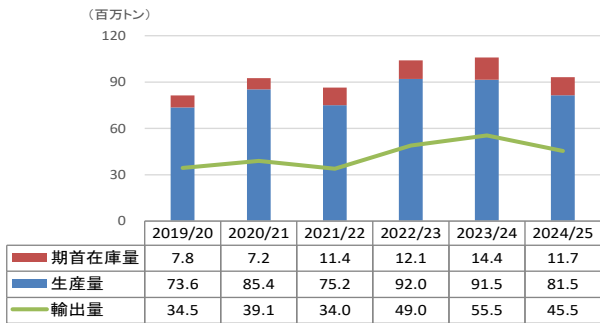
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量の引下げを受け前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 9.7 百万トンとなるものの、前年度と比べ 16.7%減となる見込み。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	92.0	91.5	81.5	(81.3)	-	▲ 10.9
消 費 量	41.0	39.0	38.3	(39.0)	-	▲ 1.9
うち飼料用	18.0	16.0	15.5	(16.0)	-	▲ 3.1
輸 出 量	49.0	55.5	45.5	(43.7)	▲ 0.5	▲ 18.0
輸 入 量	0.3	0.3	0.3	(0.4)	-	-
期末在庫量	14.4	11.7	9.7	(9.7)	0.5	▲ 16.7
期末在庫率	16.0%	12.4%	11.6%	(11.7%)	0.7	▲ 0.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.00	(27.73)	-	▲ 2.9
単収 (t/ha)	3.17	3.17	2.91	(2.93)	-	▲ 8.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
IGC 「Grain Market Report」(16 January 2025)

図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」（2025.2.11）をもとに農林水産省で作成

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2025年1月)		2024/25年度 (2024年7月～2025年1月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
国 名	輸出量	国 名	輸出量	国 名	輸出量
エジプト	85.0	エジプト	613.3	エジプト	868.3
イエメン	14.9	バングラデシュ	228.1	トルコ	691.9
アラブ首長国連邦	11.8	トルコ	201.4	バングラデシュ	350.2
オマーン	10.8	アルジェリア	166.3	アルジェリア	236.8
リビア	8.8	ケニア	139.9	サウジアラビア	224.8
ナイジェリア	8.7	ナイジェリア	123.3	カザフスタン	222.2
ケニア	8.1	サウジアラビア	106.2	パキスタン	213.0
その他	90.1	その他	1,526.1	その他	2,608.8
計	238.2	計	3,104.6	計	5,410.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2024/25 年度の輸出量は前月から下方修正され 15.5 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25年度の生産量（クリミア地域分を含む）は、前月予測からの変更はなく22.9百万トンと、2024年3月以降、降水量が平年を下回り乾燥が続いた影響により前年度と比べ0.4%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べても18.0%減となる見込み。

現地情報会社によれば、1月は平年に比べ暖かく、上旬には中程度の降雨があったものの、降水量は不足しており土壌水分量が非常に少ない状態となっている。このことは現在越冬中の2025/26年度の冬小麦だけでなく、今後の春小麦の播種にも影響することから更なる降雨が必要となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25年度の輸出量は、低調な輸出を受け前月予測から0.5百万トン下方修正され15.5百万トンと、供給量の減少により前年度と比べ16.6%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べても14.4%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2024年9月3日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の附属書を締結し、2024/25年度の小麦の輸出上限は1,620万トンに設定された。

また、ウクライナ政府は2024年12月1日から輸出許可制度を廃止し、輸出安全保障制度を導入した。当該制度では、最低輸出価格の設定、付加価値税を納税した事業者のみへの輸出許可、輸出業者の管理のため銀行及び税務当局との間での電子データ情報の交換が定められている。

ウクライナ税関庁によれば、2024/25年度のうち2024年7月～2025年1月の輸出量は1,075.7万トンと、前年同期（921.8万トン）と比べ16.7%増となっており、2024/25年度の輸出上限1,620万トンに対し66.4%を輸出している。国別には、スペイン258.1万トン（24.0%）、インドネシア155.4万トン（14.4%）、エジプト95.6万トン（8.9%）の順となっており、前年度同様スペインが首位である一方、アルジェリアやインドネシア、ベトナム、タイといったアジア諸国のシェアが増加している。現地情報会社によれば、シェア増加の要因は、アルジェリアは同国市場で大きなシェアを占めていたフランスの小麦生産量が大きく減少したこと、アジア諸国は飼料穀物の需要が増加していることやルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する臨時回廊により遠方への輸出が安定してきたことが挙げられる。

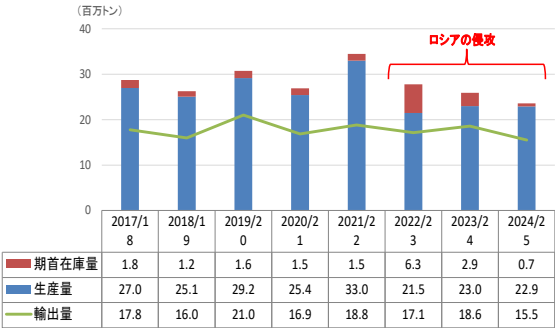
USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、輸出量の引下げ等を受け前月予測から0.3百万トン上方修正され1.3百万トンと、前年度と比べ81.7%増となるものの、史上5番目に低い水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	21.5	23.0	22.9 (25.4)	-	▲ 0.4
消 費 量	7.8	6.7	6.9 (8.3)	0.2	3.0
うち飼料用	3.0	2.0	2.2 (1.4)	0.2	10.0
輸 出 量	17.1	18.6	15.5 (17.4)	▲ 0.5	▲ 16.6
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3
期末在庫量	2.9	0.7	1.3 (0.7)	0.3	81.7
期末在庫率	11.8%	2.8%	5.8% (2.6%)	1.4	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	5.20 (6.17)	-	3.8
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.40 (4.11)	-	▲ 4.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
IGC 「Grain Market Report」(16 January 2025)

図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025. 2. 11)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2025年1月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年1月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	22.3	25.0	スペイン	258.1	24.0	スペイン	589.9	32.0
アルジェリア	19.6	22.0	インドネシア	155.4	14.4	エジプト	172.1	9.4
エジプト	15.6	17.5	エジプト	95.6	8.9	インドネシア	151.5	8.2
チュニジア	7.4	8.3	アルジェリア	94.3	8.8	トルコ	107.8	5.9
ベトナム	6.8	7.6	ベトナム	88.4	8.2	ルーマニア	100.1	5.4
バングラデシュ	5.4	6.1	タイ	64.0	5.9	パキスタン	81.4	4.4
イタリア	4.9	5.5	チュニジア	52.1	4.8	ベトナム	75.1	4.1
ボルネオ	2.7	3.0	バングラデシュ	52.1	4.8	バングラデシュ	73.7	4.0
ギリシャ	1.4	1.6	イタリア	44.4	4.1	イタリア	67.7	3.7
ドイツ	0.8	0.9	イエメン	29.8	2.8	アルジェリア	63.3	3.4
その他	2.2	2.5	その他	141.5	13.2	その他	358.0	19.5
合計	89.1	100.0	合計	1,075.7	100.0	合計	1,840.6	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の輸入量は前月から下方修正され 8.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 140.1 百万トンと、前年度より収穫面積は減少するものの、単収が増加することから前年度と比べ 2.6%増、過去 5 年平均（135.8 百万トン）と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国農業農村部「農産品供需形成分析月報 2024 年 12 月号」によれば、2025/26 年度の冬小麦の生育状況は、主要生産地において、気温が高く土壌水分も良好で越冬前に小麦が生長するために適した環境であったことから、生育が良好な小麦の割合が高くなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 151.0 百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24 年度に飼料用グレードの国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ 1.6%減となるものの、過去 5 年平均（146.1 百万トン）と比べれば 3.4%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、低調な輸入を受け前月予測から 2.5 百万トン下方修正され 8.0 百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和したことから、前年度と比べ 41.3%減となり過去 5 年間で最低の輸入量となる見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～12 月までの輸入量は 190.0 万トンと、増産を受け前年同期（408.8 万トン）と比べ 53.5%減となっている。国別には、カナダ 66.4 万トン（35.0%）、米国 46.2 万トン（24.3%）、カザフスタン 28.4 万トン（15.0%）の順となっている。豪州は 2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の 46.0%から 10.7%と大きくシェアを減らしている一方で、米国、カザフスタン及びロシアが大きくシェアを伸ばしている。

報道によれば、中糧集团有限公司（COFCO）は輸入予定であった豪州産小麦 2 隻分について、インドネシアやタイなどの国に転売した。

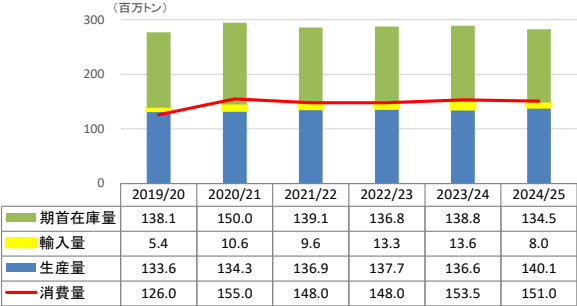
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受け前月予測から 2.5 百万トン下方修正され 130.6 百万トンと、前年度と比べ 2.9%減となる見込み。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	(単位：百万トン)			
			2024/25 (24年7月～25年6月)		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
			予測値、() はIGC			
生 産 量	137.7	136.6	140.1 (140.1)	-	-	2.6
消 費 量	148.0	153.5	151.0 (146.8)	-	-	▲ 1.6
うち飼料用	33.0	37.0	33.0 (28.0)	-	-	▲ 10.8
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	-	▲ 3.8
輸 入 量	13.3	13.6	8.0 (9.2)	▲ 2.5	▲ 41.3	
期末在庫量	138.8	134.5	130.6 (141.5)	▲ 2.5	▲ 2.9	
期末在庫率	93.2%	87.0%	85.9% (95.6%)	▲ 1.6	▲ 1.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.59 (23.59)	-	-	▲ 0.2
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.94 (5.94)	-	-	2.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
IGC 「Grain Market Report」(16 January 2025)

図 中国の小麦の供給量と消費量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025. 2. 11)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

国 名	2024/25年度 (2024年7月～12月)		2023/24年度 (2023年7月～12月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
	(輸入量：万トン、シェア：%)					
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
カナダ	66.4	35.0	121.6	29.7	307.8	23.0
米国	46.2	24.3	37.8	9.2	181.8	13.6
カザフスタン	28.4	15.0	36.1	8.8	66.8	5.0
ロシア	25.2	13.3	22.8	5.6	43.0	3.2
豪州	20.3	10.7	187.9	46.0	503.5	37.7
日本	2.6	1.3	1.8	0.4	3.3	0.2
フランス	0.7	0.4	0.4	0.1	230.1	17.2
その他	0.1	0.1	0.5	0.1	0.6	0.0
計	190.0	100.0	408.8	100.0	1,336.7	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ブラジル、アルゼンチンで下方修正され、前月から下方修正された。

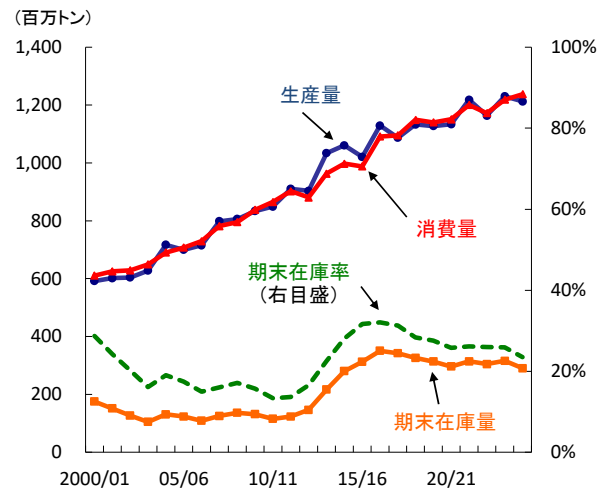
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ベトナム、ウクライナ等で上方修正されたものの、中国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ブラジル、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2025.2.11）をもとに農林水産省にて作成。

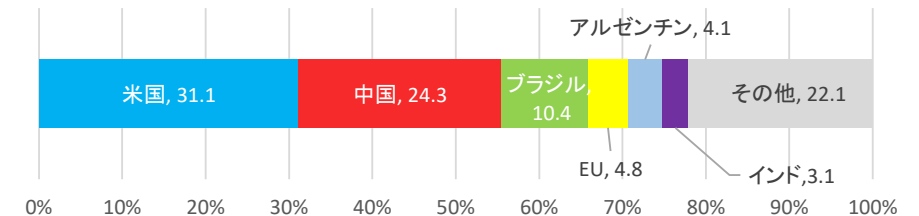
◎世界のとうもろこし需給

（単位：百万トン）

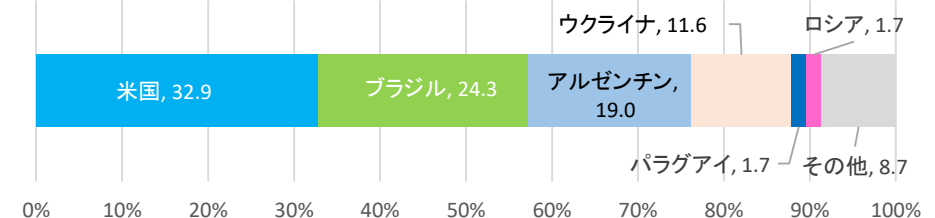
年 度	2022/23	2023/24 （見込み）	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率（%）
生 産 量	1,163.3	1,230.1	1,212.5	▲ 1.9	▲ 1.4
消 費 量	1,172.4	1,219.1	1,238.0	▲ 0.5	1.5
うち飼料用	735.1	772.8	777.5	▲ 0.8	0.6
輸 出 量	180.4	193.3	189.2	▲ 2.2	▲ 2.1
輸 入 量	173.4	197.3	181.2	▲ 2.0	▲ 8.2
期末在庫量	304.8	315.8	290.3	▲ 3.0	▲ 8.1
期末在庫率	26.0%	25.9%	23.5%	▲ 0.2	▲ 2.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（11 February 2025）

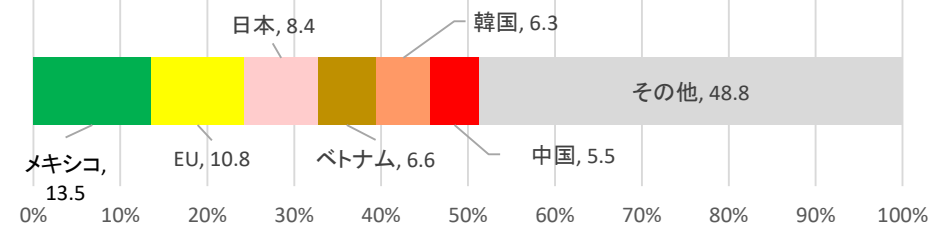
○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの生産量（1,212.5 百万トン）（単位：%）



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸出量（189.2 百万トン）（単位：%）



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸入量（181.2 百万トン）（単位：%）



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は史上最高の前年度から 3.1%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少（対前年度比 4.2%減）を受け、史上最高の前年度より 3.1%減の 377.6 百万トンとなったものの、史上 4 番目に高い見通し。収穫面積の減少は、作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作で価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたことによる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の減少を受けて前年度に比べ 0.1%減の 321.7 百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度より 6.9%増の 62.2 百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.2.11）によれば、米国産の輸出価格は、2 月 6 日現在、米国産の堅調な輸出と国内需要を受けて前月から 11 ドル/トン上昇したものの、226 ドル/トンと、ブラジル産（244 ドル/トン）、アルゼンチン産（232 ドル/トン）を下回り、価格競争力を有している。なお、2024 年 9 月～2025 年 1 月の輸出量は 2,162.6 万トンと、前年同期の 1,602.5 万トンより 35.0% 増。主な輸出先は、メキシコ 814.0 万トン（国別シェア 37.6%）、日本 393.1 万トン（同 18.2%）、コロンビア 298.3 万トン（同 13.8%）の順。

同「Feed Outlook」（2025.2.13）によれば、メキシコ向け輸出量は前年同期から 3.8%増加した一方、中国向けは 3.3 万トンで 6 年ぶりの低水準となった。米国産は価格競争力を有しており、中国の需要低下にかかわらず、メキシコや減産の EU 等の他国向けの輸出が増加する見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 12.7%減の 39.1 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 1.6 ポイント減少し 10.2%と、過去 5 年平均（10.7%）を下回っている。

とうもろこし－米国

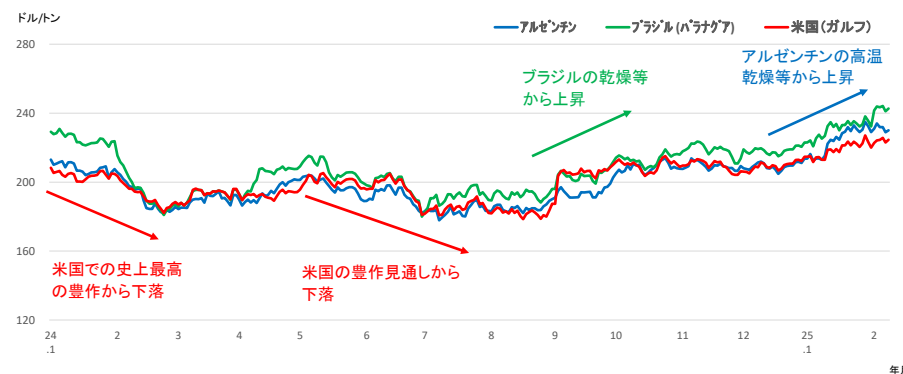
（概ね 4～5 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	346.7	389.7	377.6	-	▲ 3.1
消費量	305.9	321.9	321.7	-	▲ 0.1
うち飼料用	139.4	147.5	146.7	-	▲ 0.5
エタノール用等	131.5	139.1	139.7	-	0.4
輸 出 量	42.2	58.2	62.2	-	6.9
輸 入 量	1.0	0.7	0.6	-	▲ 11.1
期末在庫量	34.6	44.8	39.1	-	▲ 12.7
期末在庫率	9.9%	11.8%	10.2%	-	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.55	-	▲ 4.2
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.26	-	1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（11 February 2025）

図 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 3.3%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、収穫面積の増加を受けて前年度より 3.3%増の 126.0 百万トンと、史上 2 番目に高い生産量となる見込み。ただし、中西部で冬とうもろこしの作付遅延により単収が引き下げられたことを受けて前月予測から 1.0 百万トン引き下げられた。冬とうもろこしの作付けが遅れ、受粉期が乾季と重なると、十分な降雨を得られず作柄が悪化する懸念がある。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2025.2.13）によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 5.5%増の 122.0 百万トンの見込み。夏とうもろこし（ブラジルのクロップカレンダー（図）参照）は、主要生産地の南部での単収増等を受けて、前年度比 2.7%増の 23.6 百万トンの見込み。2 月上旬現在、作付進捗率は前年同期並みの 95%と作付けは概ね完了。南部リオ・グランデ・ド・スール州の収穫進捗率は 43%と、前年同期（14%）を上回っている。一方、冬とうもろこしは、収穫面積及び単収の増加等を受け、前年度比 6.1%増の 98.4 百万トンの見込み。2 月上旬現在、作付進捗率は 5 %と、前年同期（19%）を大きく下回っている。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2025.2.11）によれば、2 月上旬、冬とうもろこしの主要生産地の中西部では降雨により大豆の収穫が遅延し、大豆収穫後の圃場で作付けされる冬とうもろこしの作付けが例年より遅れている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、生産施設への投資によるエタノールの増産見込みを受けて前年度から 2.9%増の 87.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、中国向けの輸出実績が当初予想を下回ったことを受けて前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、増産を受けて前年度より 16.5%増の 46.0 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2025 年 1 月の輸出量は 359.2 万トンと、史上最高の増産となった 2022/23 年度より減産したことから前年同月比 26%減。内訳は、イラン 108.1 万トン（国別シェア 30.1%）、エジプト 87.1 万トン（同 24.2%）、ベトナム 31.4 万トン（同 8.7%）の順。

とうもろこしーブラジル

（夏とうもろこしは、概ね 8 ～翌年 1 月に作付けされ、2 ～ 4 月に収穫される。
冬とうもろこしは、大豆収穫後の概ね 1 ～ 3 月に作付けされ、6 ～ 10 月に収穫される。）

年 度	2022/23	2023/24 （見込み）	2024/25（25年3月～26年2月）			
			予測値、（ ）はCONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）	
生 産 量	137.0	122.0	126.0（122.0）	▲ 1.0	3.3	
消 費 量	78.0	85.0	87.5（86.9）	-	2.9	
うち飼料用	61.5	63.5	64.0 ...	-	0.8	
輸 出 量	54.3	39.5	46.0（34.0）	▲ 1.0	16.5	
輸 入 量	1.3	1.3	1.5（1.7）	-	15.4	
期末在庫量	10.0	8.8	2.8（4.9）	-	▲ 67.9	
期末在庫率	7.6%	7.1%	2.1%（4.0%）	0.02	▲ 5.0	
（参考）						
収穫面積（百万ha）	22.40	21.50	22.30（21.19）	-	3.7	
単収（t/ha）	6.12	5.67	5.65（5.76）	▲ 0.05	▲ 0.4	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（11 February 2025）
CONAB「Graos」（13 February 2025）

図 ブラジルのクロップカレンダー（中部から南部）

2024/25年度の夏とうもろこしの作付けは、2024年9月以降、順次開始。
冬とうもろこしの作付けは、2025年1月以降、大豆の収穫後に開始。

2024/25年度	2024年				2025年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし （リオ・グランデ・ド・スール 州等）	作付 3.7(百万ha)				収穫 23.6(百万t)								
冬とうもろこし （マト・グロッソ州、 パラナ州等）	作付面積夏冬作計 21.2百万ha				作付 17.5(百万ha)								
大豆 （マト・グロッソ州、 パラナ州等）	作付 47.5(百万ha)				収穫 166.0(百万t)								

資料：CONAB「Graos」（2025.2.13）をもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度並みの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、早植えとうもろこしの主産地で1月から2月上旬にかけての高温乾燥により単収が引き下げられたことを受けて、前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度並みで過去5年平均（49.7百万トン）より0.6%増の50.0百万トンの見込み。

USDA「World Agricultural Production」（2025.2.11）によれば、とうもろこしの作付けは1月末時点で完了。昨年、遅植えとうもろこしに病害虫のヨコバイが大量発生し作柄が悪化した一方、早植えとうもろこしは被害を免れたことから、今年度は多くの農家が例年より多くの早植えとうもろこしを作付けしたところ、早植えとうもろこしが受粉期を迎える1月に高温乾燥となり、作柄が悪化した。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2025.2.11）によれば、2月上旬、南部では降雨により土壌水分量が増加し、成熟に好影響を与えている一方、北部では乾燥が続く、成熟が依然として進んでおらず、降雨が必要とされている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用消費の引下げを受けて前月予測から2.0百万トン下方修正されたものの、食用等消費の増加を受けて前年度から0.4%増の14.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給増を受けて、前年度より2.9%増の36.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年1～12月の輸出量は3,498.9万トンで、2022/23 年度の減産から回復したことを受け、前年同期（2,397.5万トン）比で46%増となった。内訳は、ベトナム681.4万トン（国別シェア19.5%）、ペルー427.3万トン（同12.2%）、マレーシア320.2万トン（同9.2%）の順。

アルゼンチン政府は、2024 年5月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。また、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げ、これを継続していたが、2025 年1月25日、1月27日～6月30日まで一時的にとうもろこしの輸出税を9.5%に引き下げると発表した。

とうもろこしーアルゼンチン

（早植えとうもろこしは、概ね9月後半～12月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、概ね12月前半～翌年2月前半に作付けされる。概ね3～8月に収穫される。）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	37.0	50.0	50.0 (54.0)	▲ 1.0	-	
消 費 量	14.2	14.3	14.3 (20.5)	▲ 2.0	0.4	
うち飼料用	10.0	10.0	10.0 (15.4)	▲ 2.0	-	
輸 出 量	25.2	35.0	36.0 (35.0)	-	2.9	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	2.3	3.1	2.8 (1.8)	-	▲ 9.7	
期末在庫率	5.9%	6.3%	5.5% (3.2%)	0.2	▲ 0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.20	7.00	6.40 (7.70)	-	▲ 8.6	
単収(t/ha)	5.14	7.14	7.81 (7.01)	▲ 0.16	9.4	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
IGC「Grain Market Report」(16 January 2025)

写真 北部サンタフェ州のとうもろこしの圃場風景
(2025 年1月31日撮影)



当圃場のとうもろこしは、2024 年9月上旬に作付けられ、現在は成熟期にある。

1月の降雨量は23.6mmと降雨はほぼなく、最高気温は40.6℃と気温が高かった。

収穫作業は3月前半を予定。

撮影者：José Daniel Peloni

＜ ウクライナ ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から 18.5%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 18.5%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 37.1%減の 26.5 百万トンとなる見込み。収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、7 月以降の高温乾燥の継続を受けて豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 16.5%減）することにより、減産となる見込み。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用消費の引上げを受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、前年度並みの 5.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、減産により前年度から 25.4%減の 22.0 百万トンの見込み。なお、中国向け等の低調な輸出ペースを受けて前月予測から 1.0 百万トン下方修正された。

2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 1 月の輸出量は 956.6 万トンと、前年同期（1,030.0 万トン）より 7.1%減。輸出先国は、トルコ 186.2 万トン（19.5%）、スペイン 150.7 万トン（15.8%）、イタリア 149.5 万トン（15.6%）の順。2024 年 10 月～2025 年 1 月のトルコ向け輸出量は前年同期（19.4 万トン）の 9.6 倍と大幅に増加した一方、豊作の中国向け輸出量は前年同期（163.8 万トン）から 80%以上減少しており、トルコや EU、エジプト等の近隣国向けの輸出シェアが高まっている。ただし、現地情報（2025.1.28、2025.1.30）によれば、EU はウクライナ産品に対する輸入関税と輸入枠の停止措置（現行の適用期間は 2024 年 6 月 6 日～2025 年 6 月 5 日）を今後は延長しないことを検討し、新たな仕組みについてウクライナ側と交渉している。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減から前年度より 40.2%減、侵攻前の 5 か年平均より 74.7%減の 0.6 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 0.7 ポイント減の 2.4%と、2018/19 年度以来の低水準となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

（概ね 4～5 月に作付けされ、8～11 月に収穫される。）

(単位：百万トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	27.0	32.5	26.5	(26.5)	-	▲ 18.5
消 費 量	4.7	5.0	5.0	(4.7)	0.5	-
うち飼料用	3.8	4.0	4.0	(3.3)	0.5	-
輸 出 量	27.1	29.5	22.0	(22.2)	▲ 1.0	▲ 25.4
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	100.0
期末在庫量	3.0	1.1	0.6	(0.7)	-	▲ 40.2
期末在庫率	9.4%	3.1%	2.4%	(2.7%)	0.04	▲ 0.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)	4.05	4.20	4.10	(4.00)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	6.67	7.74	6.46	(6.62)	-	▲ 16.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
IGC「Grain Market Report」(16 January 2025)

表 ウクライナのとうもろこし輸出量と輸出先国

(輸出量：万トン、シェア：%)								
2024/25年度 (2024年10月～2025年1月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年1月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
トルコ	186.2	19.5	スペイン	297.4	10.1	スペイン	617.4	21.0
スペイン	150.7	15.8	中国	163.8	5.6	中国	461.9	15.7
イタリア	149.5	15.6	エジプト	134.1	4.6	エジプト	361.9	12.3
オランダ	115.6	12.1	イタリア	96.9	3.3	オランダ	277.7	9.4
エジプト	85.8	9.0	オランダ	91.8	3.1	イタリア	253.0	8.6
その他	268.8	28.1	その他	246.0	8.3	その他	975.1	33.1
合計	956.6	100.0	合計	1,030.0	35.0	合計	2,947.0	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受けて、前年度より 2.1%増の 294.9 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は前年より 2.1%増の 294.9 百万トンとなる見込み。作付面積が 4,474 万ヘクタールと前年より 1.2%増加し、単収も 6.59 トン/ヘクタールと、前年より 0.9%増加したことによる。なお、一部地域で洪水や干ばつ、台風等の被害を受けたものの、大半では気象条件は良好であり、生育に有利に働いたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大することから、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。ただし、国内の食肉需要は堅調なものの、伸びが鈍化しており、中国国家统计局（2025.1.17）によれば、2024 年の食肉生産量は 9,663 万トンと、前年比で 0.2%増。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、ブラジル、ウクライナからの輸入量の減少を受けて前月予測から 3.0 百万トン下方修正され、国内価格の下落等を受けた政策により、外国産ではなく豊作の国内産の備蓄向け購入を増加させていることから前年度より 57.3%減の 10.0 百万トンとなる見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～12 月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 49.2%減の 1,377.5 万トンの見込み。内訳は、ブラジル 646.6 万トン（46.9%）、ウクライナ 465.3 万トン（33.8%）、米国 207.2 万トン（15.0%）の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 12 月号」によれば、12 月の国内価格は、2,014 元/トンと豊作の新穀の供給を受けて前月（2,228 元/トン）から下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受けて前月予測から 3.0 百万トン下方修正され、輸入量の減少を受けて前年度より 3.8%減の 203.2 百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

（春とうもろこしは、概ね 2～4 月に作付けされ、7～9 月に収穫される。
夏とうもろこしは、概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。）

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	277.2	288.8	294.9 (294.9)	-	2.1
消 費 量	299.0	307.0	313.0 (315.1)	-	2.0
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (213.0)	-	2.7
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	18.7	23.4	10.0 (11.0)	▲ 3.0	▲ 57.3
期末在庫量	206.0	211.3	203.2 (179.8)	▲ 3.0	▲ 3.8
期末在庫率	68.9%	68.8%	64.9% (57.0%)	▲ 1.0	▲ 3.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.74 (44.74)	-	1.2
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.59 (6.59)	-	0.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
IGC 「Grain Market Report」(16 January 2025)

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

2024年 1 月～12 月			2023年 1 月～12 月			2022年 1 月～12 月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	646.6	46.9	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	465.3	33.8	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	207.2	15.0	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ミャンマー	17.8	1.3	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
ロシア	15.5	1.1	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
ラオス	7.7	0.6	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	17.3	1.3	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	1,377.5	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・スリランカ、アルゼンチンで下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

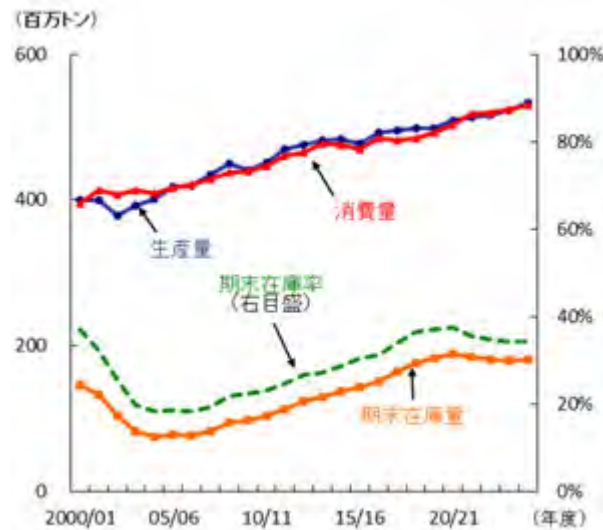
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・中国、インドネシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・インド、韓国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2025. 2. 11)をもとに農林水産省にて作成

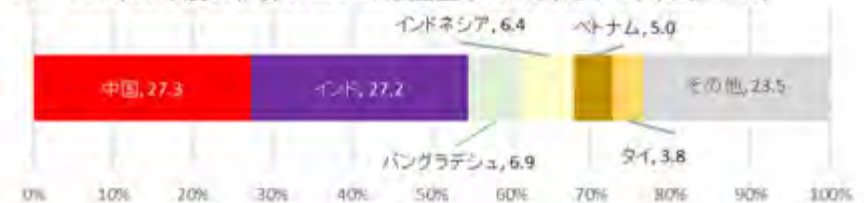
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

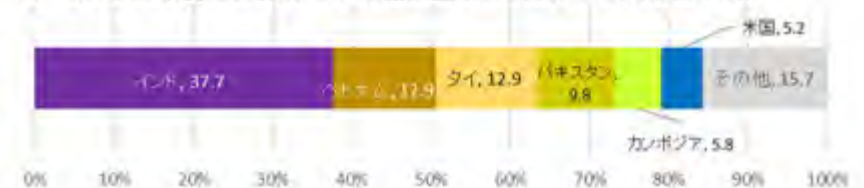
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	516.7	522.3	532.7	▲ 0.2	2.0
消 費 量	520.2	523.5	530.5	0.3	1.3
輸 出 量	55.1	56.9	58.3	0.4	2.5
輸 入 量	57.3	53.4	54.9	0.8	2.8
期末在庫量	180.7	179.5	181.6	▲ 0.5	1.2
期末在庫率	34.7%	34.3%	34.2%	▲ 0.1	▲ 0.05

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 February 2025)

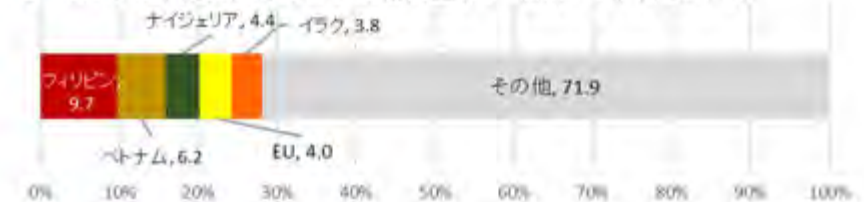
○ 2024/25年度の世界のコメの生産量(532.7百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸出量(58.3百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸入量(54.9百万トン)(単位：%)



（２） 国別のコメの需給動向

< タイ > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、20.1 百万トンと、前年度に比べ 0.5%増加する見込み。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」（2025.1）によれば、2024/25 年度の雨季米（2024 年 5 月～10 月作付け）の実産量は、良好な天候から、前年度に比べ 0.8%増の 27.0 百万トン（粳ベース）の見込み。作付面積は、前年度の 994 万ヘクタールから 992 万ヘクタールに減少する見込み。コメの市場価格が高いことから作付面積を増加させる生産者がいる一方、天候への懸念から乾燥に強いキャッサバや市場価格が高騰しているサトウキビへの作付けのシフトも行われている。なお、雨季米の収穫は 1 月に終了している。

2024/25 年度の乾季米（2024 年 11 月～2025 年 4 月作付け）の作付面積は、雨季中の降雨量が多く、十分な灌漑用水を供給できることから、前年度（163 万ヘクタール）から 19%増の 192 万ヘクタールと予測されている。

アセアン食料安全保障情報システム（2025.2）によると、2024/25 年度の乾季米は、豊富な水の供給と良好な気象条件により、単収が増加すると予測されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、インドネシア政府の輸入減の見通しを受け、前年度から 24.2%減少し、7.5 百万トンの見込み。

タイ米輸出業者協会は、インド政府による輸出規制撤廃に加え、世界的に生産量の増加が見込まれることから、国際市場での競争が激化し、2024/25 年度のインドネシア向け輸出は大幅に減少すると見込んでいる。

タイ関税局によれば、2024 年 1～12 月の輸出量は、前年同期比 13.5%増の 995 万トンで、主な輸出先国は、インドネシア 133.3 万トン（国別シェア 13%）、イラク 99.7 万トン（同 10%）、米国 84.8 万トン（同 9%）。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシア向けの輸出量は、133 万トンと輸出先国の中で最大となっている。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

（単位：百万精米トン）						
年 度	2022/23	2023/24 （見込み）	2024/25（25年1月～25年12月）			
			予測値、（）はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）	
生 産 量	20.9	20.0	20.1（20.1）	-	0.5	-
消 費 量	12.3	12.3	12.3（12.4）	-	-	-
輸 出 量	8.7	9.9	7.5（7.6）	-	▲ 24.2	-
輸 入 量	0.1	0.1	0.1（0.0）	-	-	-
期末在庫量	4.4	2.3	2.7（2.5）	0.1	17.7	-
期末在庫率	20.7%	10.2%	13.4%（12.6%）	0.6	3.2	-
（参考）						
収穫面積（百万ha）	11.07	10.65	10.70（10.70）	-	0.5	-
単収（t/ha）	2.86	2.85	2.85（1.88）	-	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（11 February 2025）
IGC「Grain Market Report」（16 January 2025）（単収は精米t/ha）

表 タイの国別輸出量

（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度 （2024年1月～12月）			2022/23年度 （2023年1月～12月）			2021/22年度 （2022年1月～12月）		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
インドネシア	133.3	13.4	インドネシア	141.1	16.1	イラク	160.0	20.8
イラク	99.7	10.0	南アフリカ	88.7	10.1	南アフリカ	77.5	10.1
米国	84.8	8.5	イラク	85.4	9.7	中国	75.2	9.8
南アフリカ	83.3	8.4	米国	70.6	8.1	米国	65.2	8.5
フィリピン	61.8	6.2	中国	47.2	5.4	日本	31.3	4.1
セネガル	46.2	4.6	フィリピン	42.0	4.8	セネガル	23.2	3.0
その他	485.4	48.8	その他	401.8	45.8	その他	338.6	43.9
計	994.5	100.0	計	876.9	100.0	計	771.0	100.0

資料：タイ関税局

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、7.1 百万トンと、長粒種の収穫面積、単収増により、前年度に比べ 1.9%増加し、2020/21 年度以降最大となる見込み。

同「Rice Outlook」(2025.2.13)によれば、2024/25 年度の種別生産量は、長粒種は、収穫面積、単収ともに増加し、前年度より 12%増の 5.5 百万トンとなる見込み。一方、中・短粒種は、南部の生産州及びカリフォルニア州における作付面積の減少を受け 1.6 百万トンと前年度より 22%減少する見込み。

【貿易情報・その他】同「Rice Outlook」(2025.2.13)によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測から 0.01 百万トン上方修正され、前年度に比べ 4.9%増の 1.5 百万トンと史上最高の見込み。長粒種の輸入量は、特に 12 月のタイからの輸入量の増加を受け、前月予測から 0.03 百万トン上方修正され、前年度に比べ 7.2%増の 1.3 百万トンと史上最高の見込み。インドを中心としたアジア諸国からの香り米の継続的な輸入も見込まれている。

中・短粒種の輸入量は、中国からの米国領プエルトリコ向けの輸入が減るとの予測を受け、前月予測から 0.01 百万トン下方修正され、前年度に比べ 4.1%減の 0.22 百万トンの見込み。

2024/25 年度の実産量は 3.1 百万トンと、3 月～4 月に収穫のピークを迎えるウルグアイ産等の南米産米との競争が見込まれることから、前月予測から 0.13 百万トン下方修正され、前年度に比べ 2.2%減少する見込み。米国産長粒種の精米価格は、2 月 7 日現在、ウルグアイ産米の価格を上回っている(ベトナムの「図 長粒種の FOB 価格の推移」参照)。

同「Exports Sales Query System」(2025.1)によれば、2023/24 年度(2023 年 8 月～2024 年 7 月)の実産量は 327.7 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 90.6 万トン(国別シェア 27.7%)、ハイチ 34.5 万トン(同 10.5%)、日本 29.6 万トン(同 9.0%)の順。種別には、長粒種は、実産量 263.4 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 84 万トン(国別シェア 31.9%)、ハイチ 34.5 万トン(同 13.1%)、ベネズエラ 21.7 万トン(同 8.2%)。中・短粒種は、実産量 64.3 万トンで、主な輸出先国は、日本 29.6 万トン(国別シェア 46.0%)、韓国 13.8 万トン(同 21.5%)、メキシコ 6.6 万トン(同 10.3%)。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、前年度に比べ 17.3%増加し、1.5 百万トンの見込み。

コメー米国

長粒種の生産量が 75%を占め、中・短粒種の生産量は 25%、その内カリフォルニア州での栽培が 20%

(単位: 百万精米トン)					
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24 年 8 月～25 年 7 月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	5.1	6.9	7.1	-	1.9
消 費 量	4.6	4.9	5.3	0.03	7.1
輸 出 量	2.1	3.1	3.1	▲ 0.1	▲ 2.2
輸 入 量	1.3	1.4	1.5	0.01	4.9
期末在庫量	1.0	1.3	1.5	0.1	17.3
期末在庫率	14.4%	15.8%	17.9%	1.5	2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.16	-	-
単収(収t/ha)	8.28	8.56	8.69	-	1.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)

図 米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料: USDA「Rice Outlook」(2025.2.13)をもとに農林水産省で作成。
価格は年度内の平均価格

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、政府の最低支持価格の上昇により、収穫面積が増加（前年度比 0.2%増）することから、前年度比 0.5%増の 145.3 百万トン（精米ベース）となる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は、作付面積 29.0 百万ヘクタール（前年比 0.2%増）及び単収 7.15 トン/ヘクタール（同 0.1%増）の増加から、前年に比べ 0.5%増の 207.5 百万トン（粳ベース）の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、世界のコメ価格の下落による輸入増を受け、前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、145.9 百万トンとなる見込み。飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い食用需要が減少することから、前年度比で 1.5%減少する見込み。なお、消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、世界のコメ価格の下落を受けベトナム、ミャンマー、パキスタン、タイ、カンボジアといった伝統的なインディカ米の供給国からの輸入が増加するとの予測から、前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、前年度比 37.3%増の 2.1 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、12 月の輸入量は、前月に比べ 20.33 万トン増加し、37.48 万トン（前月比 118.54%増）。

2024 年 1～12 月の輸入量は 162.5 万トン（前年同期 37%減）。内訳は、ミャンマー56.4 万トン（国別シェア 34.7%）、タイ 43.3 万トン（同 26.6%）、ベトナム 28.1 万トン（同 17.3%）の順。

USDA によれば、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っているものの、軟調な需要に基づく輸出が継続すると予測されることから、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比 38.7%減の 1.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、103.5 百万トンと前年度に比べ 0.5%増の見込み。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは 3 割程度

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24 年 7 月～25 年 6 月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	146.0	144.6	145.3 (145.3)	-	0.5
消 費 量	155.0	148.1	145.9 (145.2)	0.4	▲ 1.5
輸 出 量	1.7	1.6	1.0 (1.6)	-	▲ 38.7
輸 入 量	4.4	1.5	2.1 (2.4)	0.4	37.3
期末在庫量	106.6	103.0	103.5 (102.1)	-	0.5
期末在庫率	68.0%	68.8%	70.5% (69.6%)	▲ 0.2	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.01 (29.00)	-	0.2
単収(粳t/ha)	7.08	7.14	7.15 (5.01)	-	0.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 February 2025)
IGC 「Grain Market Report」 (16 January 2025) (単収は精米t/ha)

図 中国の生産量、収穫面積、単収の推移
(2004/05～2024/25 年度)



資料：USDA 「PS&D」 (2025. 2. 11) をもとに農林水産省にて作成

< インド > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 5.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、145.0 百万トンと、前年度比で 5.2% 増加、過去 5 年平均（134.5 百万トン）と比べ 7.8%増加し、史上最高の見込み。収穫面積は、50.0 百万ヘクタールと前年度に比べ 4.5%増加し史上最高となる見込み。単収も 4.35 トン/ヘクタールと、前年度（4.32 トン/ヘクタール）と比べ 0.7%増と史上最高となる見込み。

インド農業・農民福祉省によると、11 月 4 日時点で、2024/25 年度のカリフ米生産量は、前年度（113.2 百万トン）から 5.9%増の 119.9 百万トンとなる見込み。カリフ米の作付面積は前年度（40.45 百万ヘクタール）から 2.5%増加し 41.45 百万ヘクタールとなる見込み。2024/25 年度のラビ米の作付けは、2 月 4 日時点で、前年度（40.59 百万ヘクタール）から 4.8%増加し、42.54 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、旺盛な国内需要から前年度比 4.0% 増の 121.0 百万トンとなる見込み。なお、国民の食料安全保障を確保するため、食料安全保障法に基づき、公的食料配給制度（PDS）が実施されており、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。2024/25 年度の輸出量は、インド政府の輸出規制撤廃等を受け、アフリカ及び中東向けの輸出が増加するとの予測から、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、前年度比 52.5%増の 22.0 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持し、世界全体のコメ輸出総量の約 38% を占める。インド輸出入統計によれば、2024 年 11 月の輸出量は 203.1 万トンで、主な輸出先国は、ベナン 25.1 万トン（国別シェア 12.4%）、コートジボアール 18.8 万トン（同 9.2%）、トーゴ 13.8 万トン（同 6.8%）の順。ベナン等のアフリカ諸国向けは非バスマティ米の輸出が主である。

インド政府は、2022 年 9 月 9 日以降、碎米の輸出禁止や輸出関税・最低輸出価格の設定等の措置を発動・強化してきたが、史上最高の増産予測及び農家・輸出者からの要請を受け、2024 年 9 月 14 日に、バスマティ米の最低輸出価格の撤廃を発表した。また 9 月 27 日には、粳米、玄米、パーボイルド米の輸出関税を 20%から 10%への引き下げを発表。更に、10 月 23 日には、非バスマティ米の輸出禁止措置の撤廃を発表した。また、インド政府は、2025 年 1 月 1 日、インドネシア政府と年間 100 万トンの非バスマティ米の貿易に係る覚書を調印、閣議決定したと発表した。

インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、2025 年 1 月時点の期末在庫量は、29.09 百万トン（精米）と前年に比べ 60%増の見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位：百万精米トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年 9 月)			
			予 測 値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	135.8	137.8	145.0 (144.5)	-	5.2	
消 費 量	114.5	116.4	121.0 (121.0)	-	4.0	
輸 出 量	20.3	14.4	22.0 (21.4)	0.5	52.5	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	35.0	42.0	44.0 (43.9)	▲ 0.5	4.8	
期末在庫率	26.0%	32.1%	30.8% (30.8%)	▲ 0.5	▲ 1.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	47.83	47.83	50.00 (50.00)	-	4.5	
単収(精t/ha)	4.26	4.32	4.35 (2.89)	-	0.7	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
IGC「Grain Market Report」(16 January 2025)（単収は精米t/ha）

表 インドのコメ輸出規制(2024 年 10 月 23 日時点)及び
対象品目別輸出シェア

対象品目	措置内容	2024年 1月～11月 輸出シェア (%)
全ての種類のコメ穀 (HS 1006 10)	輸出関税 (10%)	1.65
全ての種類のコメの玄米(HS 1006 20)	輸出関税 (10%)	2.46
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	輸出関税：12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t)	34.44
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出関税 (10%)	45.87
バスマティ米・パーボイルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出再開	10.82
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止	4.77

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可
※有機米は本措置の対象外
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.8%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、26.5 百万トンと、前年度を 0.8%上回る見込み。2016/17 年度以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流量減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、作付面積は減少傾向にあったが、2024/25 年度の実収面積は 6.95 百万ヘクタールと前年度に比べ 0.7%増加する見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2025.2）によると、紅河デルタ地域（北部）では、乾季米（冬春作）の作付けが開始されている。温暖な天候と灌漑整備が進み、作付進捗は良好とのこと。メコンデルタ地域（南部）でも、乾季米（冬春作）の作付けが開始されており、2 月初旬の作付面積は 1.86 百万ヘクタールとなっている。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2025.2.13）によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 10.5%減の 3.4 百万トンとなる見込み。ベトナムのコメ輸入の大部分をカンボジアが占めており、カンボジアで精米されたほとんどがベトナム向けに出荷され、残りはインドから輸入している。

USDA によれば、2024/25 年度の実輸出量は、インドネシア政府調達への減少及び世界第 1 位のコメ輸出国であるインドが非バスマティ米の輸出規制撤廃等を実施したことによる同国との競争激化が予想され、前月予測から変更はなく、前年度から 17.0%減少し、7.5 百万トンとなる見込み。

ベトナム税関総局によれば、2024 年 1 月～12 月の輸出量は 903.4 万トンと、前年同期（813.2 万トン）に比べ 11.1%増加し、過去最高となった。主な輸出先国は、フィリピン 422.1 万トン（国別シェア 46.7%）、インドネシア 125.7 万トン（同 13.9%）、マレーシア 71.9 万トン（同 7.9%）、ガーナ 61.3 万トン（同 6.7%）の順。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.2.11）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の 2 月 7 日までの週の価格は、インドネシア向けの需要低迷を反映し、前月 1 月 7 日までの週から 55 ドル/トン下落し、394 ドル/トンとなった。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25 年 1 月～25 年 12 月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	27.1	26.3	26.5 (28.6)	-	0.8	
消 費 量	22.4	22.4	22.4 (22.7)	-	-	
輸 出 量	8.2	9.0	7.5 (7.5)	-	▲ 17.0	
輸 入 量	3.3	3.8	3.4 (2.2)	-	▲ 10.5	
期末在庫量	3.4	2.0	2.0 (2.6)	▲ 0.03	-	
期末在庫率	11.0%	6.5%	6.8% (8.5%)	▲ 0.1	0.3	

(参考)
収穫面積(百万ha) 7.12 6.90 6.95 (7.12) - 0.7
単収(t/ha) 6.10 6.10 6.10 (4.02) - -
資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
IGC「Grain Market Report」(16 January 2025) (単収は精米t/ha)

写真 カントー市 Thoi Lai 郡 Tan Thanh 村の圃場 (2025.2.11)



図 長粒種の FOB 価格の推移 (2024 年 2 月 7 日～2025 年 2 月 7 日)



資料 USDA「Grain: World Markets and Trade」(2025.2.11)より

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・アルゼンチン、パラグアイで下方修正され、前月予測から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

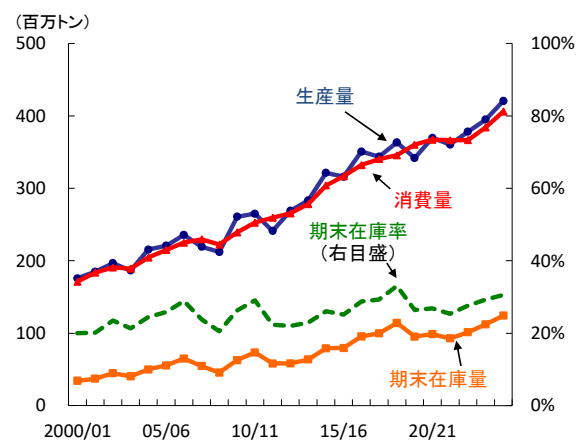
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・パラグアイで下方修正されたものの、ブラジル等で上方修正され、前月予測から上方修正され、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・カザフスタンで上方修正され、前月予測から上方修正され、史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2025.2.11)をもとに農林水産省で作成

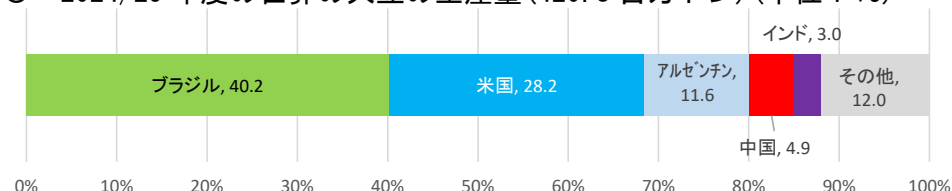
◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

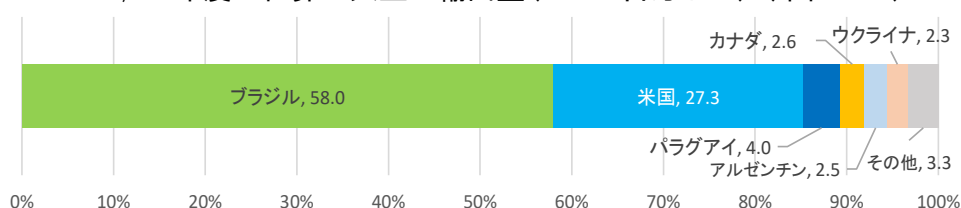
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	378.2	395.0	420.8	▲ 3.5	6.5
消費量	366.7	384.3	406.2	0.7	5.7
うち搾油用	315.6	331.2	349.9	0.6	5.6
輸出量	171.8	177.5	182.0	0.01	2.5
輸入量	168.6	178.1	179.2	-	0.6
期末在庫量	101.2	112.5	124.3	▲ 4.0	10.5
期末在庫率	27.6%	29.3%	30.6%	▲ 1.0	1.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 February 2025)

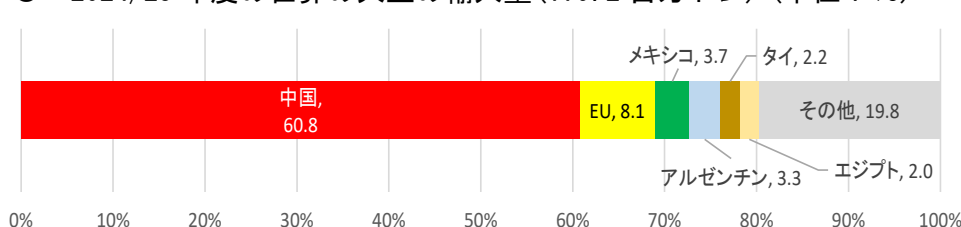
○ 2024/25 年度の世界の大豆の生産量(420.8 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸出量(182.0 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸入量(179.2 百万トン) (単位：%)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 4.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 4.9%増の 118.8 百万トンと史上４番目の見通し。作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、大豆油等の需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 4.8%増の 68.7 百万トンで史上最高の見込み。

USDA 「Oil Crops Outlook」(2025.2.13) によれば、2024 年 12 月の大豆搾油量は、5.9 百万トンと、前月よりわずかに増加し、一日あたりの搾油量は 19.1 万トンと史上最高となった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 7.7%増の 49.7 百万トンの見込み。

USDA によれば、2024 年 9 月～2025 年 1 月の輸出量は 3,400.7 万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の 2,862.3 万トンより 19%増。内訳は中国 1,811.2 万トン（国別シェア 53.3%）、メキシコ 243.2 万トン（同 7.2%）、イタリア 185.6 万トン（同 5.5%）の順となっている。

2025 年 2 月 4 日、米国政府は、中国からの全輸入品に 10%の追加の輸入関税を発効した。それに対し、2 月 10 日、中国政府は、石炭や石油ガス、原油等に対象品目を絞り米国からの輸入品に追加の輸入関税を設定したものの、米国产大豆は対象に含まれなかった。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 10.9%増の 10.3 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前月予測からの変更はなく、8.7%と、前年度（8.3%）、過去 5 年平均（8.0%）を上回っている。

大豆－米国

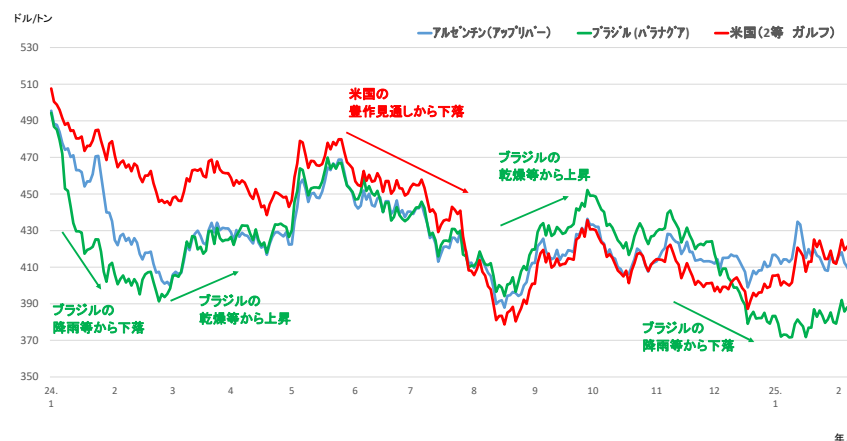
（概ね 5～6 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 9 月～25年 8 月)		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.2	113.3	118.8	－	4.9
消費量	63.3	65.6	68.7	－	4.8
うち搾油用	60.2	62.2	65.6	－	5.4
輸 出 量	53.9	46.1	49.7	－	7.7
輸 入 量	0.7	0.6	0.5	－	▲ 5.3
期末在庫量	7.2	9.3	10.3	－	10.9
期末在庫率	6.1%	8.3%	8.7%	－	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.87	33.29	34.82	－	4.6
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.41	－	0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)

図 米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高（対前年度比 2.8%増）となり、主要生産地の中西部で生育期を通じて天候に恵まれ単収も増加（同 7.5%増）する見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。

CONAB の月例報告（2025.2.13）によれば、2024/25 年度の実産量は、とうもろこしから収益性が高い大豆に作付けがシフトすること等による作付面積の増加（対前年度比 2.8%増）及び単収の増加（同 9.3%増）から前年度より 12.4%増の 166.0 百万トンの見通し。2 月上旬現在、収穫進捗率は 8 %と、中西部マツト・グロッソ州等での降雨過多による収穫作業の遅れを受けて前年同期（14%）を下回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、搾油用消費の引上げを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度より 2.6%増の 60.1 百万トンと史上最高の見込み。

「OIL WORLD Weekly」（2025.2.7）によれば、2024 年のブラジルのバイオディーゼル生産量は、前年より 20%増の 7.9 百万トンの見込み。2024 年 3 月に導入された 14%のバイオディーゼル混合基準は概ね満たされている。なお、ブラジルでのバイオディーゼル原料に占める大豆油の割合は約 7 割と、大豆油が主要な原料となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国からの引き続き堅調な需要等により、前年度から 1.3%増の 105.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2025 年 1 月の輸出量は 107.3 万トンで、前年同月（285.5 万トン）に比べ 62.4%減。輸出先は、中国 80.0 万トン（国別シェア 74.6%）、タイ 11.9 万トン（同 11.1%）、イラク 9.3 万トン（同 8.6%）の順。

「OIL WORLD Weekly」（2025.2.14）によれば、2024/25 年度の実産量の収穫遅延を受けて輸出量が前年同月から減少したとみられる。

大豆－ブラジル

（概ね 9～12 月に作付けされ、1～4 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 （見込み）	2024/25（24年10月～25年9月）			
			予測値、（）はCONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）	
生 産 量	162.0	153.0	169.0（166.0）	-	10.5	
消 費 量	57.2	58.6	60.1（60.2）	1.0	2.6	
うち搾油用	53.4	54.7	56.0 …	1.0	2.4	
輸 出 量	95.5	104.2	105.5（105.4）	-	1.3	
輸 入 量	0.2	0.9	0.2（0.5）	-	▲ 82.8	
期末在庫量	36.8	28.0	31.5（1.7）	▲ 1.0	12.7	
期末在庫率	24.1%	17.2%	19.0%（1.0%）	▲ 0.7	1.8	
（参考）						
収穫面積（百万ha）	44.60	46.10	47.40（47.45）	0.10	2.8	
単収（t/ha）	3.63	3.32	3.57（3.50）	-	7.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（11 February 2025）
CONAB「Graos」（13 February 2025）

写真 中西部マツト・グロッソ州の大豆の圃場風景
（2025 年 1 月 23 日撮影）



当圃場の作付作業は 2024 年 10 月 21 日に行われ、現在は自然乾燥待ちである。
気象条件によるものの、通常は自然乾燥を 10 日間続ければ収穫可能である。

撮影者：Rafael Rohenkohl

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 8.4%増加する見込み（AAFC）

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2025.2.19）によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、東部での収穫面積と単収の増加等により、前年度（7.0 百万トン）から 8.4%増の 7.6 百万トンの見込み。州別には、米国コーンベルトに隣接する最大生産州オンタリオ州の実産量は前年度から 8 %増の 4.4 百万トンの見込み。隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されており、マニトバ州の実産量は前年度から 8 %増の 1.1 百万トン、ケベック州の実産量は前年度から 9 %増の 1.4 百万トンの見込み。

なお、AAFC によれば、2025/26 年度の作付面積は、大豆価格の低下を受けて農家
が他作物に作付けをシフトさせることが見込まれることから、2024/25 年度（231 万
ヘクタール）から 7.0%減の 215 万ヘクタールの見込み。

【需要状況】AAFC によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、
搾油用等の需要増により前年度（2.2 百万トン）から 11.6%増の 2.5 百万トンの見込
み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変
更はなく、供給増を受けて前年度（4.9 百万トン）より 11.9%増、過去 5 年平均（4.3
百万トン）より 27.0%増の 5.5 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会によれば、2024/25 年度（2024 年 8 ～12 月）の輸出量は 301.6
万トンで、前年同期（267.4 万トン）を上回っている。国別では、中国 83.8 万トン（国
別シェア 27.8%）、イラン 68.1 万トン（同 22.6%）、アルジェリア 37.8 万トン（同
22.6%）の順となっている。

なお、カナダ産大豆は、主産地がカナダ東部であるものの、通常日本向けは鉄道を
利用して太平洋岸のバンクーバーを経由して輸出されるルートとなっている。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産
を受けて前年度から 4.2%増の 0.6 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

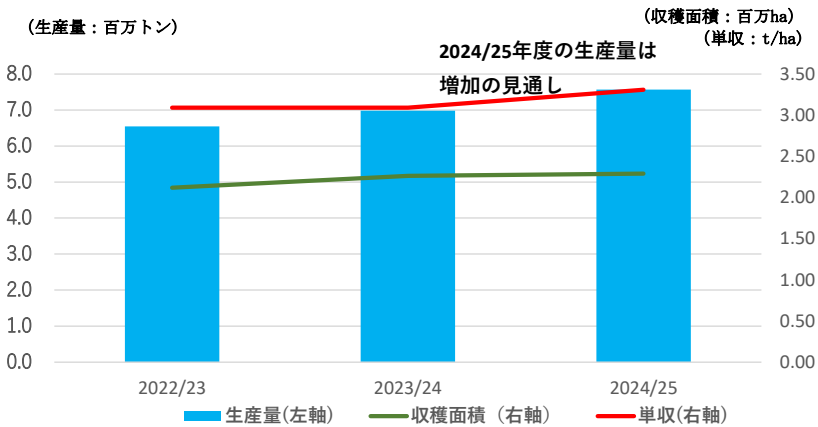
（概ね 5 ～ 6 月に作付けされ、9 ～11 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（24年8月～25年7月）		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.5	7.0	7.6 (7.6)	-	8.4
消 費 量	2.7	2.3	2.9 (2.5)	-	25.1
うち搾油用	1.8	1.7	1.8 (1.9)	-	5.9
輸 出 量	4.2	4.8	4.8 (5.5)	-	▲ 0.9
輸 入 量	0.5	0.3	0.4 (0.4)	-	4.5
期末在庫量	0.4	0.6	0.8 (0.6)	-	47.6
期末在庫率	5.3%	7.9%	10.9% (7.2%)	-	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.29 (2.29)	-	1.3
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.30 (3.31)	-	6.8

資料：USDA「PS&D」、
「World Agricultural Production」（11 February 2025）
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（19 February 2025）

図 カナダの直近 3 か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2025.2.19）をもとに
農林水産省にて作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、史上最高の前年度から 0.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少を受けて前年度より 0.9%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目に高い見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は、前年から 0.9%減の 20.7 百万トンとなる見込み。単収は 2.00 トン/ヘクタールと前年から 0.5%増加したものの、作付面積は 10.34 百万ヘクタールと前年より 1.4%減少することによる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.9 百万トンと史上最高の見込み。ただし、国内の食肉需要は堅調なものの、伸びが鈍化しており、中国国家统计局（2025.1.17）によれば、2024 年の食肉生産量は 9,663 万トンと、前年比で 0.2%増。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.7%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～12 月の輸入量は、前年同期より 6.1%増の 10,503.5 万トン。内訳は、ブラジル 7,465.0 万トン（71.1%）、米国 2,213.4 万トン（21.1%）、アルゼンチン 410.2 万トン（3.9%）の順。12 月の米国からの輸入量は 425.4 万トンと、前月比で 52.4%増、前年同月比で 10.5%増となった。これは、ブラジル産大豆の端境期に当たり、米国産の輸入を増やしたためとみられる。

USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」（2025.2.11）によれば、中国の米国産輸入量は 5 年ぶりの低水準となった。ブラジル産が米国産より大幅に安価に取引されているためとみられる。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量と輸入量の合計が消費量を上回っていることを受けて、前年度より 6.1%増の 46.0 百万トンと史上最高の見込み。

大豆－中国

（概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			2024/25 (見込み)		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
			予測値、()	IGC		
生 産 量	20.3	20.8	20.7	(20.7)	-	▲ 0.9
消 費 量	117.5	121.8	126.9	(127.8)	-	4.2
うち搾油用	96.0	99.0	103.0	(105.8)	-	4.0
輸 出 量	0.1	0.1	0.1	(0.1)	-	42.9
輸 入 量	104.5	112.0	109.0	(109.0)	-	▲ 2.7
期末在庫量	32.3	43.3	46.0	(48.8)	-	6.1
期末在庫率	27.5%	35.5%	36.2%	(38.2%)	-	0.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.24	10.47	10.33	(10.36)	-	▲ 1.3
単収(t/ha)	1.98	1.99	2.00	(1.99)	-	0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
IGC「Grain Market Report」(16 January 2025)

表 中国の大豆輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)								
2024年 1月～12月			2023年 1月～12月			2022年 1月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	7,465.0	71.1	ブラジル	6,993.0	70.7	ブラジル	5,439.3	61.0
米国	2,213.4	21.1	米国	2,374.3	24.0	米国	2,780.2	31.2
アルゼンチン	410.2	3.9	アルゼンチン	199.2	2.0	アルゼンチン	351.8	3.9
ウルグアイ	145.3	1.4	カナダ	146.6	1.5	ウルグアイ	178.8	2.0
カナダ	122.8	1.2	ロシア	129.3	1.3	カナダ	71.9	0.8
ウクライナ	61.5	0.6	南アフリカ	14.7	0.1	ロシア	69.4	0.8
その他	85.5	0.7	その他	38.6	0.4	その他	30.4	0.3
計	10,503.5	100.0	計	9,895.7	100.0	計	8,921.8	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

＜ アルゼンチン ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.6%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前年度から 1.6%増の 49.0 百万トンの見込み。増産の主な要因は、大豆の収益性が高まっていることに加え、農家が病害虫のヨコバイによる被害懸念からとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせることによる。ただし、継続的な高温乾燥を受けて生産量は前月予測から 3.0 百万トン下方修正された。

USDA「World Agricultural Production」(2025.2.11)によれば、1 月末時点で大豆の作付けは完了。アルゼンチン産大豆の約 75 パーセントを占める早植え大豆が開花期を迎える 1 月に高温乾燥が続き、単収の見込みが引き下げられた。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2025.2.11)によれば、2 月上旬、南部では降雨により土壌水分量が増加し、成熟に好影響を与えているとみられる。一方、北部では乾燥が続き、成熟が依然として進んでおらず、降雨が必要とされている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が増加することから、前年度比 10.9%増の 48.6 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 23.0%減の 6.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受けて前年度より 11.9%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。なお、アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1 ～12 月の輸出量は、2022/23 年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 459.9 万トンで前年同期 (185.9 万トン) の 2.5 倍。輸出先は、中国 391.9 万トン (国別シェア 85.2%)、米国 12.3 万トン (同 2.7%)、チリ 6.7 万トン (同 1.5%) の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定していたが、2025 年 1 月 25 日、1 月 27 日～6 月 30 日まで一時的に大豆を 26%、大豆油及び大豆粕を 24.5%に引き下げると発表した。

大豆ーアルゼンチン

(早植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、3～7 月に収穫。
遅植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、4～7 月に収穫。)

年 度	2022/23	2023/24 (見 込 み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	25.0	48.2	49.0 (51.5)	▲ 3.0	1.6	
消 費 量	36.6	43.8	48.6 (49.2)	-	10.9	
うち搾油用	30.3	36.6	41.0 (42.7)	-	12.1	
輸 出 量	4.2	5.1	4.5 (5.4)	-	▲ 11.9	
輸 入 量	9.1	7.8	6.0 (5.7)	-	▲ 23.0	
期末在庫量	17.0	24.1	26.0 (11.5)	▲ 3.0	7.9	
期末在庫率	41.7%	49.1%	48.9% (21.1%)	▲ 5.6	▲ 0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	14.40	16.37	17.30 (17.33)	-	5.7	
単収(t/ha)	1.74	2.95	2.83 (2.97)	▲ 0.18	▲ 4.1	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 February 2025)
IGC「Grain Market Report」(16 January 2025)

写真 北部サンタフェ州の大豆の圃場風景
(2025 年 1 月 31 日撮影)



本圃場では遅植え大豆の作付作業が 2024 年 11 月下旬に行われ、現在は開花期にある。1 月の降雨量は 23.6mm と降雨はほぼなく、最高気温は 40.6℃ と気温が高かった。ただ、大豆の作付け前に小麦があったため、水分量が保たれた。収穫作業は 4 月前半を予定。

撮影者：José Daniel Peloni

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について（2024/25年度）

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>（「Reference Data」タブを参照）

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

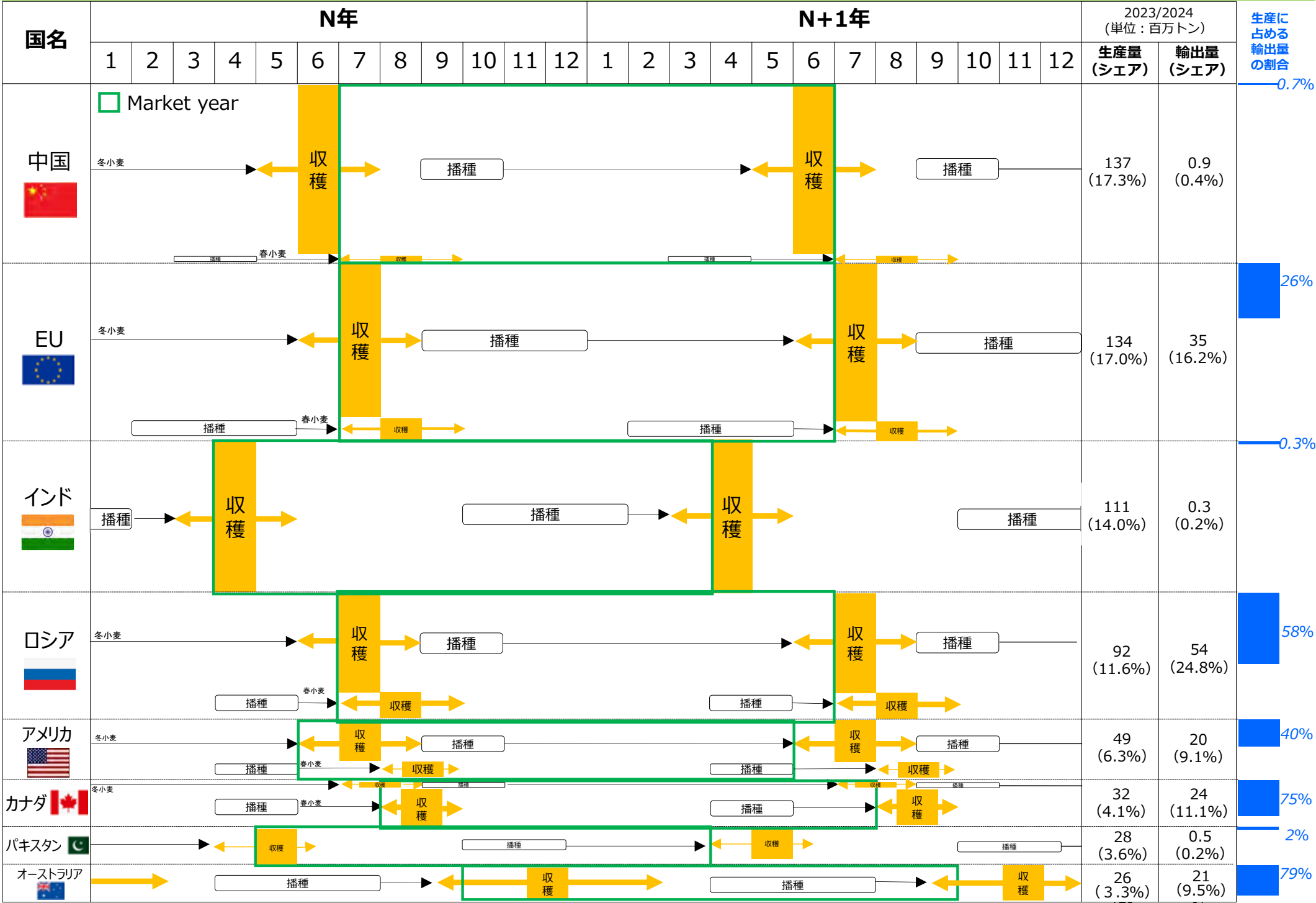
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏：℃＝(° F－32)÷1.8			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



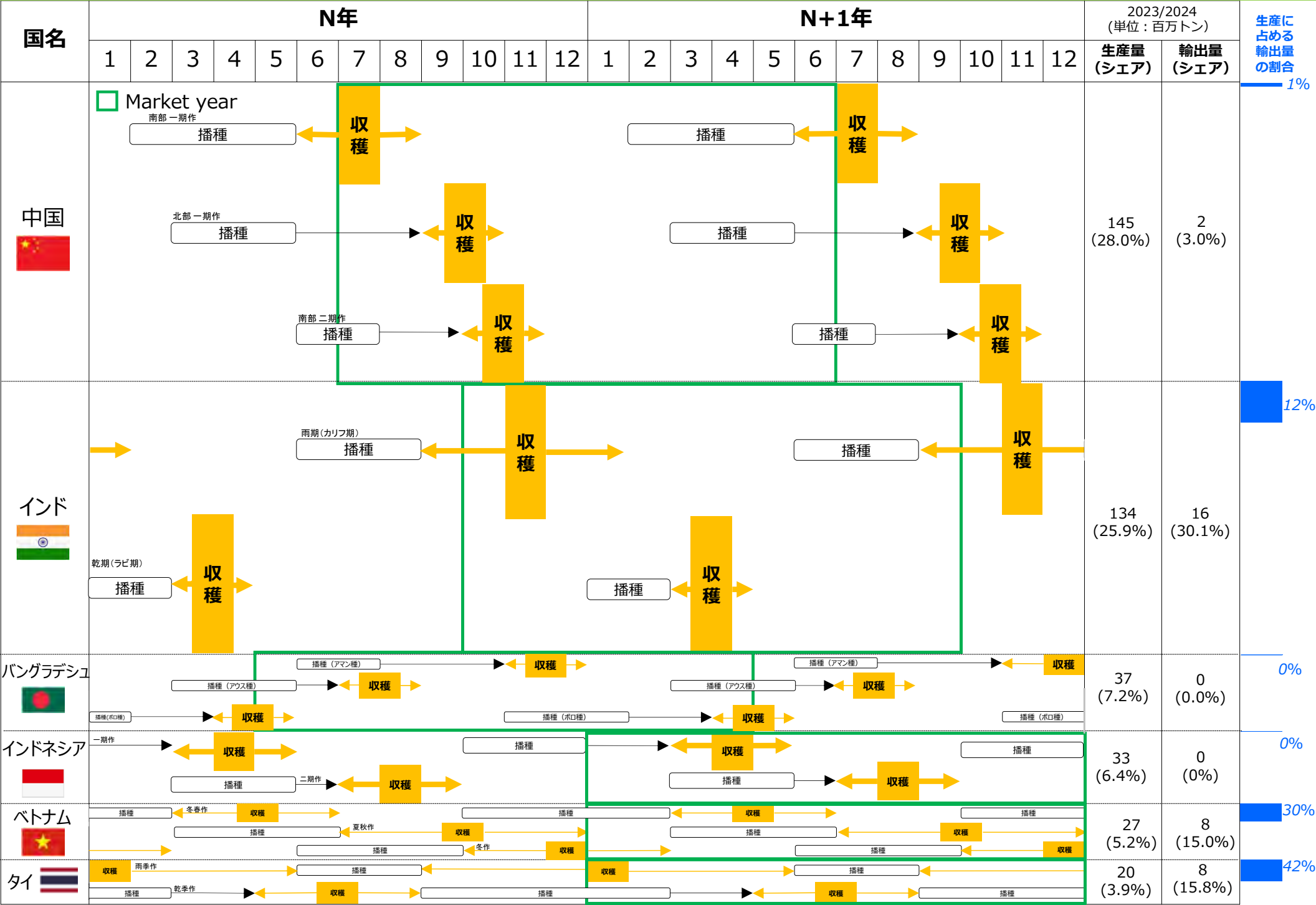
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他：179 (22.8%) 61 (28.4%)

主要生産国のクロップカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendar」、「PS&D」(2024.5) 注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：122 (23.5%) 19 (36.1%)

主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出品 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出品 (シェア)	
アメリカ 	□ Market year								播種 → 収穫												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%				
中国 	播種 → 春作 → 収穫												播種 → 夏作 → 収穫												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%
ブラジル 	夏とうもろこし → 播種 → 収穫												冬とうもろこし → 播種 → 収穫												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%
EU 	播種 → 収穫												播種 → 収穫												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%
アルゼンチン 	播種 → 収穫												播種 → 収穫												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%
インド 	乾期(ラビ期) → 播種 → 収穫												雨期(カリフ期) → 播種 → 収穫												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出品 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出品 (シェア)	
ブラジル 	☐ Market year									播種 収穫 播種												154 (38.8%)	102 (59.1%)	66%			
アメリカ 	播種									収穫 播種 収穫												113 (28.6%)	46 (26.8%)	41%			
アルゼンチン 	早植え 遅植え 播種 収穫 播種 収穫									播種 収穫 播種 収穫												50 (12.6%)	5 (2.7%)	9%			
中国 	播種									収穫 播種 収穫												21 (5.3%)	0.1 (0.1%)	0.5%			

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」（2024.5）注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：59 (14.8%) 20 (11.3%)

主要生産国のクロープカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
EU 	□ Market year						収穫											収穫							20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%
	→							播種	→										播種	→							
カナダ 							収穫											収穫							19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%
	播種 →							→	→										→	→							
中国 	→						収穫											収穫							15 (17.4%)	0 (0%)	0%
	→							播種	→										播種	→							
インド 	→						収穫											収穫							13 (14.1%)	0 (0%)	0%
	→							播種	→										播種	→							
オーストラリア 	播種 →						収穫											収穫							6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%
	→							→	→										→	→							
ウクライナ 	→						収穫											収穫							4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%
	→							播種	→										播種	→							
ロシア 	播種 →						収穫											収穫							4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%
	→							→	→										→	→							